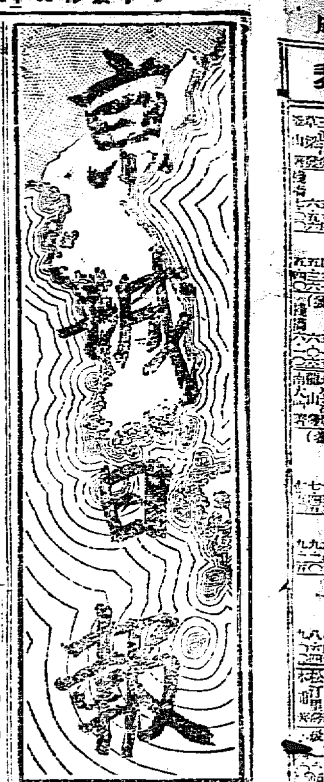


十五日夕刊
（朝夕刊併せて八頁）

發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社

露國の政變

▲ケ氏過激派を撃破す
露都に三頭政治を形成

コペンハーゲン來電＝十一月十三日露都よりハパランダに到着せる旅客の談にケレンスキー軍は完全に過激派を撃破したりとの報道を確認し且つ曰くケレンスキー、カレヂン、コルニロフ氏等はペトログラードに三頭政治を形成し露都の軍隊は今や全部ケ氏側に加擔せり前ケレンスキー内閣々員は二名を除き前部放免されレニンは捕縛されたりと視せらる（倫敦電報）

▲ケ軍露都に入り込む
過激派側の軍隊算を亂して退却

コペンハーゲン來電に依ればケレンスキー氏麾下の軍隊は去る十一日夜來續々露都に入り込みつゝあり過激派側の軍隊は算を亂して退却中なり（倫敦電報）

▲ケ氏逮捕命令
トレッキー軍ケ軍追撃か

露國よりの無線電信に依れば反ケレンスキー派軍司令官ムラビヨフ將軍はケレンスキー氏逮捕の命令を發し同時に革命政治に危害を及ぼす悪擧を禁じたり尚トレッキー氏は告示して曰く『十一月十二日夜ケレンスキーが首都に向け反革命軍を進めて決定的排斥を爲せし事は長く歴史に特記せられんケレンスキーは今退却中にして吾輩は今將に之を追撃せんとすペトログラードの海陸兵卒及び勞働者は兵力を以て如何にして民主政治の權力を鞏固にせしむ可きかを知り且つ之を强行せんと決意せり中産階級は陸軍を革命政府より引離さんと試みケレンスキーは暴力と哥薩克兵を以て革命政府を破らんと企てしが二つながら失敗に歸せり』と（倫敦電報）

▲レニン遂に艦艇に走る

レニン一派の運命は十一日夜砲兵隊俄然レニンに叛し政府の味方となりたる結果遂に露都を支持する勢力に大破綻を來しレニン派の手段全く盡きレニンはネバ河上碇泊の巡洋艦オーロラ號に走りたりと（露都電報）

▲レニン軍主力聯隊降服

レニン軍の主力たるテクヅコレスキー聯隊は寛大なる所置を受くる條件の下に全露革命委員會と協議成立し十二日政府に降りたるものゝ如しされど形勢混沌としてレニン軍とケレンスキー軍との別判明し難き程なりケレンスキー氏は未だ露都に在らず（露都電報）

▲内亂と鐵道運輸

露國鐵道執行委員會は内亂止まざれば鐵道運輸を中止すべしと決議せり（露都電報）

◎佛内閣遂に瓦解

佛國パンルヴエ内閣は遂に瓦解せり（巴里電報）

◎聯合軍增援急行

聯合軍の增援隊は伊太利に向ひ急行しつゝあり（倫敦電報）

◎獨軍ア島上陸無根か

獨逸軍がアーランド島に上陸せる報道は事實無根なるが如し（ストックホルム電報）

◎外相大本營行 急行

本野外相は外交上の重大要務を帯び不日大本營に向け急行すべし（東京電報）

◎勸銀債發行 計畫

政府は下層金融調節の爲め勸業銀行債券七百萬圓發行の計畫あり近く決定發表せらるべし（東京電報）

◎總監山本氏招宴

既報の如く山縣政務總監は十四日午後六時三十分より山本悌三郎氏一行及び記者團を朝鮮ホテルに招待し晩餐會を開きしが列席者は山本氏一行を初め主人側よりは山縣政務總監、宇佐美内務部長官、工藤總務課長、遠藤秘書課長等主客二十五名、山縣政務總監は一場の挨拶に兼ねて朝鮮に於ける猛獸の危害に關する實例を統計に示して説明し山本氏の今回の計畫に贊同の意味を言明し之に對して山本氏の答辭あり食事中虎の危害險談或は傳説等主客の間に談り交はされしが食後控室にて山縣政務總監の朝鮮の虎に關する極めて趣味多き講話二題を聞くに及むでは主客共に興に入り嬉々として聞入れる状は宛然家翁の膝下を繞ぐる兒孫が其お伽噺に興ずる一幅家庭團欒の圖にも似て面白かりき

◎鮮債公募締切
申込三百六十五萬圓

日本銀行代理店たる朝鮮銀行並に全鮮取次銀行にて取扱中なりし朝鮮事業公債四千五百萬圓の公募は十五日締切りたるが十四日鮮銀國庫課調査によれば其の申込額三百六十四萬七千二百四十圓に及び尚好況なり尚ほ十五日の申込約一萬圓内外に達する見込みに付總額は三百六十五萬圓を超ゆべし

◎慶北 鮮債應募高

本月十二十三兩日間に於ける慶尚北道内朝鮮事業公債應募申込高は八萬五千圓にして内大邱府の民間申込高は二萬五千圓なり（大邱）

◎繩叺自給狀況

從來穀物の包裝用繩叺は主として内地より供給を受け其移入額一個年一百萬圓に上り總督府當局に於ては數年來地方廳をして各地の狀況に應じ繩叺の生産を奬勵せしめつゝありたれども産品の品質其他の關係より兎角移入品に壓倒されて産額も抑制さるゝ傾向ありしが本年は本家産の米作は殊に不足の爲め内地品の移入意の如くならず價格も亦漸く騰貴し來りたるより繩叺の製造は農家の副業として俄かに重要なる地歩を占むるに至り就中全羅南北道、慶尚南北道等に於ては産額の進著しく昨今新穀包裝の如きは殆んど全部鮮地産にして此勢を以て進まば遠からざる將來に於て全然其の移入を防遏し得るに至るべしと

◎清會線新驛

十一月二十五日より豊山會寧間十五哩余營業を開始し清會線の全通を見る事は屢報の如きが既設驛たる豊山停車場と會寧間の中間驛は中島停車場一驛のみにて同驛に於ては旅客手荷物並に車扱及び混積噸扱、大貨物に限り取扱ふ可しと

◎鮮鐵機關車の新造
米國及び沙河口に三十三臺の注文
加藤滿鐵京管經理課長談

滿鐵京管局にては鮮鐵現在の輸送力の增大並に出貨激增すべき將來の輸送計劃實施に伴ひ機關車の增加を圖る必要あり然も時局は新機關車の製作費に大膨脹を來さしめ其の新註文は少なからざる苦痛なるもさりとて此儘推移するは鐵道事業の進展發達を阻むるに遺憾少なからざるを以て出來得る限りの手段により其の增加を計畫し居れり

▲沙河口より九臺 目下京管局線に於ける機關車の總數は約百七十臺なるも内十臺内外は常に修理掃除等のため機關庫に入り其の毎日運行を見るは百六十臺に過ぎず然も小型の機關車も少なからず現在に於ても機關車の牽引力は列車數に比し若干不足を感ずる事さへあり故に其の充實を圖るため昨年滿鐵沙河口工場に註文したる大型機關車九臺は本年内に竣成廻着の筈なりしも諸種の關係上大正七年に延引の歩むなきに至りしが明年の出穀期には十分間に合ふべし

▲米國に廿四臺 更に目下三井高田等を通じ米國の機關車製造會社に對し其の新造註文の交渉を行ひつゝあり此分は尚ほ最後の決著を見居らざるも多分ロコモチーブ、カンパニーに十二臺を註文し其分は明年十月頃迄に米國を積み出し廻鮮の事となる豫定にて更に同國ボールドウイン、カンパニーにも十二臺を註文する事となり居れるが此方は契約の完了直ちに締結するも其の新機關庫の朝鮮着は大正八年二三月より早からざるべき予但し上述の機關車總數三十三臺の廻鮮を見ば鮮鐵の輸送力は大に增大すべし

◎會寧機關分庫

十一月廿五日より京管にて會寧に淸津機關庫の會寧分庫を設くる事となれり

◎隊署長會議

京畿道憲兵隊署長會議第三日は十五日午前九時半官舍に於て隊本部に開會し隊署長並に隊本部副官主計警務部警視各係主任警部等列席し後藤警務部長の指示及注意事項午後の討議事項並に衛生及び術科あり午後四時散會せり

◎京城最近商況

鮮銀の調査に係る京城最近の商況左の如し

▲米穀界 は内地期米の漸騰と近來漸く新米の出廻り開始とにより市況活躍を呈し來りたるも例年に比し收穫遲れの關係上未だ捗々しき出廻りを見ず地場の品薄と相和するに過ぎず從つて未だ纏まりたる輸出商談なき如し

▲大豆 は各産地出廻り期尚早き品薄の折柄内地品薄のため昂騰の氣勢を呈し居れり

▲綿絲布 は月初に於ける内地市況暴落は斯界不振の絶頂に達せしも海外に於ける需用增加並に綿絲商の關係にて市場漸次持直し加ふるに向寒に伴ない需用增加在荷と相俟って

▲買氣を促進 し荷動き稍繁忙を呈する等輸移入に對する資金融に諸求期に大迫り諸工事の促進による資金需要增加と相俟て金融は漸次繁忙の域に進みつゝあり

◎稗里機關庫新設

從來滿鐵の稗里機關庫は大田機關庫の分庫なりしも十一月二十五日より稗里機關庫を獨立する事となれり

◎南鮮降雹被害

本年秋季南鮮地方一部に於て降雹の爲め農作物被害あり其著しきは左の如し

▲十月二十八日午後三時半頃慶尚南道宜寧郡の一部に降雹あり水稻の被害見積價格六千餘圓

▲十月二十九日午後十一時半より五分間慶尚北道慶山郡内降雹の爲め水稻に被害あり其の見積價額二千圓

◎開通式出席者

來る二十五日會寧に擧行せらるゝ滿鐵京管局の清會線全通式には滿鐵より國澤理事長列席の筈なりしも社務多忙のため中止し京管局よりは久保局長、川上工務課長以下十五名向會すべく又遞信局よりは海事課長伊藤宮弘氏北鮮出張の途次列席する由

◎四武官北行

入京中の陸軍省醫務局長鶴田禎次郎、關東都督府軍醫部長野口詮太郎、第十九師團軍醫部長岩田末彥、羅南騎兵第二十七聯隊長土屋鶴の四氏は十五日午前九時三十分南大門驛發列車にて三軍醫は元山を經て北鮮駐屯部隊巡視並に視察に、土屋中佐は歸羅せり

◎入江書記官入京

拓殖局書記官入江海平氏は十五日午後七時二十五分南大門驛著列車にて入京すべし

◎久保理事歸期

大連に出張中の久保滿鐵京管局長は二十一日出發北行の筈に付多分十七日歸京すべしと

◎り支配人通過

京奉鐵道支配人リケット氏は十五日朝京城通過奉天に向へり

◎巡査補卒業式

警官練習所にては十五日午前十時十七期巡査補卒業式を擧行せり卒業生四十名[illegible]澤警務部長、藤沼警視列席せり

人事

▲宮家正義氏（[illegible]） 十四日附を以て[illegible]

▲田中玄黄氏（平壤高等普通學校長） 十四日附を以て五日間出張を命ぜらる

▲ゴールド氏（[illegible]） 十四日午後東京旅館へ

▲藤井甘氏（李王世子附） 十四日午後東京へ

▲李根澤子 十四日午後水原へ

▲平壤高等普通學校職員生徒一行 十四日退京

▲森三郎氏（[illegible]少佐） 十四日午後入京[illegible]

▲齋藤孝夫氏（憲兵中尉） 十四日午後入京巴城館へ

▲樋口秀雄氏（代議士） 十五日入京天眞樓へ

▲篠原潮氏（住友社員） 同上

▲中村小平氏（保安課長） [illegible]引籠中

▲宮永昌吉氏（セウルプレス記者） 郷母の病報に接し十五日夜南行歸省

◎獨軍の殘虐行爲

獨逸軍は俘虜男女老幼の別なく珠數繫ぎとなし之を彼等の軍と伊軍との間に置き以て伊軍の攻擊を防止せんとし其の光景慘鼻を極む又白耳義に於けると同樣掠奪、燒棄、婦女凌辱、小兒亂殺等到る處に行はれつゝあり（羅馬電報）

◎參議院正式開會

臨時參議院は十四日午後一時正式に開會し出席者二百二名あり進歩黨首領王揖唐氏は三十七票に對する六十五票の多數を以て議長に選擧せられたり（北京電報）

◎貴州軍吳軍衝突

貴州軍は重慶に著し十一日夜吳光新の軍と衝突せり（北京電報）

◎林公使對支說明
青島民政署設置に對する抗議の回答

林公使は十二日外交部を訪ひ青島民政署設置に付共同宣言公文に對し所謂日本の特殊利益なる語義に就き詳細說明をなせり（北京電報）

彼れ此れ

○チャーチル卿は、露國なる國家の存在は之れを認むる能はず。我等は露國を打算の外に置きて、既に軍事計畫を進めざるべからず、下院秘密會議に於て其成案ありと云て言明す。英國の決心已に然り、聯合國の決心亦然るべし。

○佛國にては、英米伊の三國と共同せば、獨軍を制壓すべき、十分の望みありと云ふ。我陸軍の歐州出動は、理想としては最も望ましきも、其の實行の至難なるは、列國亦能く之れを諒とせん。

○世界の偉人帳に、特筆せられたる、ルーズヴェルト氏は、今やサガモア丘上に隱退し、耳順の齡を迎へ、平和の餘生を樂むと思きや、我竹下海軍中將に語る處、老雄の面目躍如たり。

○日本を理解する氏にして、始めて我國粹美を解す可く、明治大帝の御聖德を讚美する氏は、唯に米國の偉人に非ずして、眞に世界的の英雄兒、加餐を祈る。

□群山より歸京
別府生

▲十二日。目をさますと誠に好い天氣である。午前無風、午後疾風これが群山の天候の常態だ、午後になると必らず烈しい風が吹く、で、小生は午前無風の間に、朝鮮銀行支店長、群山府尹、商業會議所長、其他米穀貿易商三四の組合等に挨拶を濟まし、午後群山發の列車で京城への途に就いた

▲群山も年々來る故か、格別市勢に異つた變化を見ない、内地人の數は六七前年と矢張り同樣で五千人と云ふ所に釘付の儘らしい、唯市中に新らしい半永久的の建物をチョイ〜見る位である

▲全北米の群山出廻りはまだホンの初期である、然し埠頭に行くとそれでも二三千俵の米の山が積んであり、港内には大阪商船の汽船が三隻も碇泊してゐて、其の艀に頻りと米を積み込んでゐる、人夫がドシ〜米を積み込んでゐた「ヨンチキ〜」と云ふ掛聲が勇ましく聞ゆる

▲まだ盛季でないとは云へ、流石に米の群山だけある、市中に馳ひてゐる荷車は空叺を滿載してゐるか、又は米俵を高く積んでゐる、岸通りなど歩いてゐる人は、殆ど前垂姿の大抵敏捷な米商らしい、何しろ今年の群山港は七十萬石の玄米を内地に送り一千三四百萬圓の貿易をしやうと云ふ勢ひだから仲々活力は旺んなものである

▲海岸から群山公園に並んだ老松の並木を振り返りつゝ群山から裡里へ、裡里で大田行本線の列車に乘換へた、前日を打つて變つた快晴で、細縷のやうな白雲が切れ〜に浮ぶ名の大空には初冬の日は強くガラス窓から差し込み、車中の氣分頗る快適であつた

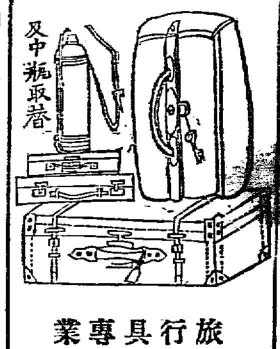
▲野、道、畦畔、農家の庭、目の及ぶ所稻束が積んである、同じ車中には農業者も三四乘つてゐて、收穫後の乾燥にはかうした快晴の日が一週間は尚ほ欲しいと切りに云つてゐた

▲序でに湖南線の列車の速力は頗るノロイ、もう少し早くしなくちやと國澤理事も久保局長も公言して居る、聞く所によれば目下進められつゝある湖南全線に於ける改良工事が終ると、湖南全線の各列車の速力を早め停車場の停車時間を短縮し得るだらうとの事である

▲その時期も明年の秋らしい、小生は湖南沿線の人々と共に其の日の一日も早からん事を切望する、尤もから云へば汽車のなかつた時の交通を考へて見いと叱る人があるかも知れぬ、然し鐵道が出來た以上、能ふ限り良き列車の運行を望む事は必らずしも無理でなからう（おはり）

◎特約店募集 資金貸與の方法有

當社は世に類例稀なる便利且安價販賣方法の一新機軸を案出し明治四十五年營業開始以來多年の經驗と研究とに依り普く社界の好評を博し物價騰貴の今日人類生存上無くてならぬ日用百貨商品を問屋の手を省き悉く完備せる大工場にて製造直卸するが故に少く共市價の三分の一乃至半値で仕入れられ如何なる無資本家も安全確實に儲かる光明な面白い仕組から出來て毎月二百圓宛確收入[illegible]さたらぬ内に返券入年[illegible]請求し速に特約權を[illegible]東京神田萬世橋際 日本通商聯絡會社



旅行具專業
岩田鞄店
京城本町二丁目
電話九五四番

天安溫陽間自働車發時刻

天安發	定期	午前八時三十分（南大門發急行接續）
同	定期	午前十一時三十分
同	臨時	午後三時三十分
同	定期	午後五時二十分
溫陽發	定期	午前九時二十分
同	定期	午後二時
同	臨時	午後四時二十分
同	定期	午後六前十分

溫陽溫泉行御便宜を計り右の通り發車致候間御用命願上候
天安織居自働車部

內外大博覽會 金銀賞牌受領
印入手拭 タオル
大阪市東區瓦町三丁目

手拭は泉谷

宮內省 御買上之榮
法風呂敷
泉谷商店
振替大阪二〇一八番 電話本局三千四番

資本金壹百萬圓
不動産抵當ニテ長期低利ノ貸出致候
京城 株式會社漢湖農工銀行
支配人 遠山熈
支店所在地 開城、春川、大田、江景、公州、淸州、忠州、論山、鐵原、鳥致院
普通銀行業務は確實親切に御取扱可申候

千葉縣東葛飾郡野田町 釀造元
宮內省御用達 茂木佐平治
天下一品 萬 最上醬油
各地共有名なる酒醬油店又は食料雜貨店にて販賣す不相變御用命願上候目然品切れ等の場合は下記の所へ御通知被下度奉希上候
大連監部通
龜甲萬醬油荷捌所

十一月一日現行

川瀬行幸 御野立所にて御統裁

大元帥陛下には十五日朝九時彦根御發輦川瀬驛に御降車御野立所に向はれ御統裁の後午後四時還幸遊ばされたり（彦根特電）

▼光榮ある御前講演 淀中尉の謹話

今回御前講演の光榮を荷へる淀中尉謹みて語りて曰く余は十四日午後二時三十分御前に伺候したるが陛下には天幕內の御椅子に倚らせ給ひ余は上原參謀總長の側より進み出で最敬禮を行ひて後口を開き安土城の由來、結構信長の事蹟に就き約三十分間御講話申上げたるに陛下には地圖を按じて聞し召されたりと（彦根特電）

▼北軍瀬田の橋を破壞す

今回の大演習は從來の如く兩軍に對し種々の制限を加へず軍の行動時間等は一切軍司令官の自由に委し殊に汽車又は汽艇の利用など便を開き十四日午前四時北軍が瀬田の橋を破壞せるが如き其一例にして特色とも云ふ可し。北軍飛行機は南軍が鐵道輸送せるを見込之を北軍司令官に報告せし爲め大利益を得たり飛行偵察の成功の一なり（川瀬特電）

▼北軍退却

十四日夜南軍は徹宵戰鬪を爲し北軍は此の夜南軍後備部隊の來着に依り今後の戰況の發展意の如くならざるを察し軍を後退して再擧を計るの有利なるを知り午前二時前北方の要地に退却するに決し然も之を秘して敵に知らざらしむる爲め第一線日野川、佐久良川の間に若干部隊を殘置せり（彦根特電）

祖國を護るの士氣は果して誰に求めん

陸軍少將 宮川義孝氏談＝其二

露都の動亂が果して如何に展開すべきやは今直ちに推斷を許さゞれども結局は失敗に終るべしと信ず如何となれば過激勞働黨の集團たる下級勞働者及び無智の小農民は自己の利益に向ふには主義目的も稱はず只雷同して其利益分配の多からんことを主眼とせるに過ぎざるを以て

其分配の豫想に適せざる場合には 忽ち紛擾を釀すを常とすされば此黨の主張の如きは實現すべき條理のことに非らず且つレーニン等が種々彼等の意を定めるに最も便なる方便を以て煽動的に出でたるものなりと知らば彼等は到底レーニンの位地を持續せしむることは能はざるべし之れに反してケレンスキーは大元帥として軍隊の統御を有せるを以て必らずや武力を以て彼れを征服するの策に出づべきは當然の成行なるべしと想像せらる、先づ以上は露都の政變に就きて自分の推側に過ぎざるもレーニンの

從來の行動に見且つ彼れが獨逸の 差金に因りて露都を混亂せしめ聯合各國をして始末に窮せしめんと計りし策略なりとし殊に彼は猶太種族に屬せる最も激烈なる社會主義を標榜せし其頭目にして過般の帝政廢滅を自己の理想を出現すべき機運到來せりと爲し民心の收攬に努めたる結果なりやと露人中相當智識階級の者は噂し居たりじ。なり、而して斯くの如く屢々紛擾を極むる露都及び露國の將來は如何に結末を附け同盟軍に對して宣戰せし主旨の貫徹を期すべき哉は聯合各國は勿論

我國に於ても最も注意警戒すべ き所にして迚て援助を與へ有終の美を收めしめざるべからず幸にして露都に於ける紛擾の未だ出征部の人心裡に著しく影響の及ばざるも之れ又此後益々騷亂の態度を加ふるに至らば如何なる狀態に變化すべしとも期し難し現に今日にても幾分の餘波は一部の方面に及ぼし居れる模樣ありと聞けり或は兵らん首都騷擾を極め指揮命令區々に出で軍資軍糧缺乏し風評頗る大に傳へらるゝに於ては如何に國家に忠節なる兵士と雖も進んで身命を賭し祖國を護るの士氣を奮起するの概あるべきや否や實に同情に堪へざるなり幸にケレンスキー氏あり

軍隊及び勞兵會の信頼去らざるを 以て遠からず露都の秩序を回復し國內の統一を計ることに努力すべしと信せり、露國の戰狀に就きては各國の新聞紙上に種々の報道を掲載し居れるを見るに各自其陣地に在りてのみの觀察に過ぎざるを以て一も徹底したるものなし素より一部の方面に在りては最早戰に倦み戰意なきの徒もあらんが多くは忠實に奮戰し政變の如何なる成行に進みつゝあるは更に顧慮せざるものゝ如し現時露都附近に於て騷擾をなしつゝある軍隊は其數數十萬にも達し且つ多からず銃器の如きも數千萬挺彈丸數百萬發を藏せりと吹聽せるも其實は只僅かの額に過ぎず

露國に於ける食糧品問題は一時は 甚しく缺乏し僅かに數日を支ふるに過ぎず抔と噂せしも其後叫もなく市場に現はれ豐富なりとは云ふを得ざれども日常には敢て不足を告げ居らず然し白麵麭の如き容易に市民の口に上らず殆ど黑麵麭を常食となし居れり昨今露都に於て極めて困難を感せるは露都以外に通ずる汽車の乘車券購入の不便なることなり露に入國拒絕以來はインターナショナル券の如きは早きも一個月以後の切符に非らざれば發賣せず夫れすら容易に手に入ることを得ず國有鐵道と雖も稍や同樣にて獨逸乘車券を轉賣するものあり此等の手に因りて得んと欲せば乘車賃金以上の口錢を支拂はざる可からず斯の如き狀態にて交通機關及び總ての方面に滑りて何れも勝手氣儘の取扱を爲し居れる現狀なれば是等を收拾し舊狀に復するは實に容易のことに非らず

殊に勞働者の勢力旺盛にして總 ての機關が殆ど彼等の手に歸し居れるを以て之を回復し秩序を保つ迄には種々の紛擾を醸すべく向後の變化は如何に成行くものにや想像する能はず

尙同氏は今回砲工學校教官より大阪砲兵工廠部員に轉補せるを以て歸朝直に同工廠に赴任すべしと（釜山）

淺野造船所 職工紛擾

神奈川縣淺野造船所職工六千餘名は十四日賃銀分配の事より不滿を懷き罷業を企て事務所工場を襲ひ窓、器物等を破壞したるが加藤技術部長の慰撫にて鎭定したり（東京特電）

虎狩隊一行の出發

山本唯三郎氏の虎狩隊一行、新聞記者隊を併せて三十有餘名は豫定の如く十五日午前九時三十分南大門發の列車で元山へ向け出發した。折柄雨後の晴れ間を吹く小春の和かい風が寒からず熱からずの御誂へな陽氣であつたので一行の氣分も勇みに勇んで見ねた見送人は新聞通信雜誌記者其他石原事務官外多數であつて發車間際にき

一路元山へ＝虎狩隊出發の光景（×印は山本氏）

李鎭龍は死刑 新義州支廳にて

平北寧邊郡八院面龍城洞にて通行中なる雲山郡北鎭面東洋合同金鑛株式會社の現金輸送馬車を襲擊して內地人巡査、米國人、馭者の支那人等數名を殺傷したる九人組の兇賊主魁にして以前黃海道平山郡徒の總帥なる李鎭龍（三）及び其の部下黃鳳信（三）黃鳳雲（二）の三名は十三日平壤地方法院新義州支廳にて死刑の宣告を受けたり

香港總督 元山へ狩獵に

香港總督サー、ヘンリー、メー氏は辯護士ジャフジ氏と共に十五日朝新義州にて來着午前十時半發列車にて京城を經て元山に向ふ可く約一週間の日程は鳥類なり携帶の銃八挺にて內五挺は螺旋銃なり（釜山特電）

全國特產品展覽會

十五日より京城にて開催

德島縣五明文庫の設立者として有名なる柏木直平氏は明治天皇御一代に我帝國領土植民地及び租借地たる樺太等に於ける物產及び動植物工產品農產其他衣食住の狀態を知るべき資料約一萬二千點を獨力無資を以て蒐集し先きには斯る篤志事と成りし臺灣、朝鮮、滿洲、琉球の各地の爲め藍綬章を受け居れるが來大阪市に於て先帝の御偉業を記念し奉るべき新日本博物館建設の費を得る爲め右の資料中六千餘點を攜帶し內地各所に於て巡廻展覽會を開きつゝありしが今回遊鮮し來りたるより京城に入り十五日より向ふ一週間京城俱樂部西大門支部を借用して一般の觀覽に供する由入場料は大人二十錢

蔚山白骨事件 死刑確定 遂に上告棄却

近來の怪事件として社會の耳目を聳動せしめたる蔚山白骨事件の被告長坂七太郎（三七）に係る强盜殺人文書僞造詐欺橫領等の事件は第一審釜山地方法院にて死刑の判決を受け大邱覆審法院に控訴せしも同院死刑となり更に高等法院に上告したる結果第二審を破棄して京城覆審法院に還附され其の結果第一審を取消し更に死刑の宣告を受けたるも之れに服せず高等法院に上告中の處十一月十五日午前十時高等法院に於て淺見裁判長外四判事陪席草場檢事の立ち會ひにて上告棄却の判決言渡しあり結局京城覆審法院の判決通り死刑と確定せり因みに此の事件に最初より辯護の勞に當りしは釜山の佐々木清綱氏なりと

南海電車衝突の原因判明

十四日南海電車（朝刊に通報）の衝突は其原因取調の結果全く電話の聞誤りより起りたる不祥事にして責任は驛長にあるが如し而して西臺は藍の如く引き裂け五名の即死者三十八名の重傷者四十名の輕傷者を出せしが如き南海電車空前の慘事にして重役は善後策考究中なり（大阪特電）

一萬五千圓の約束手形僞造 大金を騙取して遊廓で豪遊す

京都市上京區岡崎町生れ京城黃金町二丁目居住菅原誠一（三）は以前田中源次郎と僞名し南大門通五丁目小杉謙八氏に鑛山を賣り込みたることあり是れを動機に小杉の名義を以て約束手形を振り出し方々より金員を騙取せんことを企て先づ鑛山の

▲賣買契約書 を僞造して小杉に鑛山を賣却したるが如く假裝し次いで其の代金は約束手形を以て受け取りたりと稱し僞造したる小杉及び南大門通五丁目富士商會との二個の印章を押捺して十月二十二日以降に額面五百圓乃至一千圓の約手十二通金額合計一萬五千圓の僞造を遂げ之れを龍山元町二丁目山口より現金四百七十五圓榮町住友より數回に合計現金二百十五圓小切手にて二百圓を騙取したる後旭町一丁目山本某より忠北堤川郡所在の重石水鉛鑛の名義變更の申請を依賴されたる際山本の

▲印章を僞造 して申請したるも果さず、其の後古市町居住製造業權野富三郎（三五）と共謀し前記小杉名義の僞造契約書と約手とを以て元町一丁目門田より五十圓騙取し尙外數箇所にて同樣騙取せんとして果さず所持の金員は新町遊廓に春穗、大和新地梅の家等に豪遊消費したる上巧みに潜伏中を兩名共此の程本町警察署の手に逮捕され取調べの上檢事局へ送られたり

軍人小兒中等學校生青年會員各十錢小學校生徒五錢なりと

大戸辯護士釋放

龍山辯護士大戸復三郎氏は詐欺取財の嫌疑を以て馬山支廳檢事局に拘引せられたる事は既報の如くなるが取調の結果事實判明し去る十二日釋放十三日歸釜したりと（釜山）

讀者文藝（一等に五十錢 選外秀逸者に薄謝す）

▲川柳『足袋』

○今樣の美人大きな足袋をはき（一等）京城 木庵生

▲光秀がへち足袋で出る村芝居 岩崎 染水

▲白足袋を履いてた男黑い者 龍山 癸芳

▲百姓の子も白足袋の祭がはり 龍山 岡本小草

▲隱消した娘島田に紺の足袋 京城 厄介坊

▲[illegible]で足袋[illegible] 龍山 天人齋

▲手に足袋を提げて男行くいゝ日和 保亭 香々陶

▲町內の馬鹿な足袋屋のあるじ知り 水原 雄金 五朗

▲我が足を背はずに足袋が小さがり 梨浦 花園

京中機動演習

京城中學校にては來る十七日早朝より龍山永登浦始興間に於いて機動演習を行ふ午前五時校門出發行軍の形式にて漢江を渡る演習を爲すべく午前七時より演習開始同午後一時頃を以て終るべしと

解剖祭

京城醫學專門學校の解剖祭は十七日午後二時より永樂町西本願寺別院に於て擧行す

のどかな頃

▲立花蜻洲將軍の東上を鎌倉に福岡聯隊人會が催されたと見へ▲野田大塊翁の手蹟で『從三河屋』として蜻洲將軍、白仁拓殖局長官、西田敬止、中野紳堂なんどの諸氏雅號や姓名を連記したのは、きが無佛居士宛に届いたが▲大塊翁は例に依り『將軍の七種を踏みし路』の十八名を書き添へてあつた▲白仁長官も早速大塊翁に無理弟子入をさせられたと見えて『禁林の秋風しのぶ京の森の』一句が見ねた▲未だ弟子入り匆々で俳號もないと見ねて『白仁武』の三字を銘打たるも面白し▲近頃鍾路警察管內では靴の掻拂ひの被害が多い▲殊に妓生家の如きは一時九圓も十圓もする上等の靴を十足以上も掠はれる事があつたり又た內地人にも被害が多い、何うしても其の贓品を發見する事が出來ない▲之は本町署とも協議して色々贓品の行先を尋ねて見るが何うしても解らぬ▲之は何んでも大袈裟な牙保があつて一手に之を買占めて改造するか又は他地方へ送り出してゐるのではない歟と當局に於ては目下嚴重に搜查中であるとの事▲內鮮人共御用心然る可し

讀者課題及び募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚每に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲締切は一週間後 [illegible]

商況

債券現物特電

[illegible]

公債直取引

[illegible]

深川正米特電

[illegible]

東京期米特電

[illegible]

大阪株式特電

[illegible]

大阪三品特電

[illegible]

大阪期米特電

[illegible]

雜報

綿糸布手堅し

[illegible]

綿布三銘先物 九圓五錢

[illegible]

石炭酸の其後

[illegible]

軍需用以外の輸出彌困難

[illegible]

硫化染料界の活況 一割の昂騰を示す

[illegible]

染料市況混沌 一大波瀾は免されまい

[illegible]

釜山穀物（十四日）

[illegible]

仁川期米 ▲十五日前場（强硬）

[illegible]

正米高氣配

[illegible]

精白米引締む

[illegible]

下關相場

[illegible]

南大門の廻穀

[illegible]

市場雜觀

[illegible]

仁川取引所 十五日の一月限

[illegible]

北濱たより 株は戻り賣

[illegible]

仁川 本町三丁目 [illegible] 仲買

大阪期米

十五日後場 二十五圓十八錢 [illegible] 上り一旦七十九錢と押込みたるも大阪の跡高移りに八十錢より六十錢と跳ね結局五錢と大混戰裡に引 [illegible]

平均三節 十九圓八十錢 [illegible]

連絡船上陸客 [illegible] 十五日午後九時四十分釜山入港對馬丸 [illegible]

天氣

北西風晴れ（十五日午後六時迄）十一月十六日

[illegible]

さぞや滿洲は冷たかろ

〈＝＝奉天の冬は怖るゝに足らぬ＝＝〉
〈＝＝室内の空氣の汚れるが不可ない＝＝〉

奉天南滿鐵醫院長 山井三七氏談

頃日の滿洲は謂ゆる『秋風吹き斷つ天山の草』寒い蒙古の風が頭なを吹きまくつて愈な寒い冬景色と謎つた『さぞや滿洲は寒からう』

◆唄の文句 を聞いたゞけでも内地の人々は顫ひあがる思ひであるがサテ愈よ滿洲人になつて見ると左程でも無きさう、これに就て山井滿鐵醫院長のおはなしを訊くに左程怖る程の氣候でもなかつた、院長のおつしやるには、『私の身體には滿洲がよほど適してゐると見ゐる、内地に居た時はチョイ〳〵風邪に罹つたものだが奉天に來てからはどんな厳冬でも大丈夫、こちらの

◆冬は決して 健康上怖るべきところは無い、尤もこれは私自身を標準として云ふんだが世間一般の人にも決して憂慮すべき氣候ではない、但し[illegible]乃至井戸といふ嚴寒の要求する程度の防寒の準備[illegible]らそれに適應した防寒の設備[illegible]活は必要なを申す迄もないがそれさへ相當に出來て居れば寒氣そのものには些ツとも怖るゝ事はない、私は曾て十二月の嚴冬哈爾賓に往つて見たが彼處では

◆婦人子供 お腰がさうな着物を著て元氣に街を飛び廻つてゐる、鼻のさきや頰は林檎のやうに紅くなつてゐるがそれでも樂しげに戸外を歩いてゐた、哈爾賓でさへさうであるから滿洲などは怖るゝに足らない、但し婦人や嬰兒には此の嚴冬にあまり好ましくない、たゞこゝへ[illegible]防寒の爲めに[illegible]を密閉し換氣も[illegible]に行かねばならぬ[illegible]

◆汚た空氣 を呼吸すると[illegible]になる、從つて[illegible]多くなる、尤も小學校に通學する位ゐの子供なれば服裝さへ相當にしてやれば元氣に戸外をはね廻るから差支ない、これに就て思ふのは日本式の疊を何とか西洋式に變へたいものである、趣味から云へば兎に角室内の塵埃を防ぐには疊はどうも面白くない、それに

◆呼吸機の 疾患ある人はあまりよい處ではない、しかし西洋でもすゐぶん寒い[illegible]由なさに[illegible]療養所があるがそれらは[illegible]程のものではないと思へばこれも[illegible]…なかなか[illegible]位ゐだから概して云へば健康地だといへる』（奉天）

張督と三省統治

楊參謀長晋京任務

張奉天督軍の豫て理想として渇望する處の東三省軍權統治案は過般の黑龍省事變に際し許蘭洲氏を

◆奉天に馴致 して鮑督軍を罷任せしめたるに由りて張督統治の權力は黑省に及び同省は恰も奉省の附庸となり終りたるも獨り吉林省は先驅なる孟督軍の厳在する爲め奉省より一指を染め能はざりし處過般同省の獨立事件に對し中央に於ては徐世昌、王士珍氏等の大元老ありて之れが居中調停に努めたるも彼等元老の威力も馬賊不及腹の嘆ありて

◆吉林叛將等 を服せしめ能はざるより西南問題に沒頭して復た吉林邊事を顧慮する能はざる中央政府は已むなく實力ある張奉天督軍に其處置を一任したる處吉省征服の大望ある張督軍は何條此好機を逸すべきや直ちに和戰兩樣の準備を備へて孟督に對峙し終に出兵したる事態の如きが孟督は見事屈伏したるも意外にも黑龍省は奉省軍權の同省を侵蝕するに懼惑たる矣、巴爾旅長及び軍官

◆一同の反感 甚だしくして目下鮑督の地位危殆に瀕すれば張督は自己大望の遂行上且つは奉省の威信上是非共武力を以て黑省反將等を屈伏せしめざる可らざるの破目に陥れり一昨日楊參謀長が俄に晋京したるは此等に關する重大使命を帯ぶる者にして卽ち

◆三省軍權統一 の大局よりして吉省に對しては孟督去後の後任者は必ず奉省より選拔して奉吉携手の進行を圖る事又黑龍省に對しては斷然英巴等反將の提議を拒斥して鮑督軍の地位を保全し以て中央政府の威信を維持す可き事及び此事は奉省獨力を以て之れを遂行する事等に就きて當局者を懇談し以て軟骨なる政府を慫慂せしめんとするにあるが中央が果して張督の提言を是認するや否やに張督今後の勢力に

◆一大關係あれ ば彼れは必ず死力を以て之れを爭ふ可く結局中央滿蒙の現政府には之れ聽くの外なかるべしと（奉天）

吉林新式軍器

吉林省警兵所用の軍器は多く舊式に屬し加ふるに多年使用の結果不用のもの多きを以て[illegible]各路の警兵に整理を斷行する爲め新式軍器に換へんとし之れが經費二萬四千餘元の支出方を中央政府に電請せり

東拓貸出現情

東拓會社奉天支店は十月一日開始以來最近迄貸金申込は口數四十餘金額一百萬圓に達せるが（大連支店は二百萬圓に達す）此内正金特貸に由らんとする者多きも同特貸金は現在殘額僅かに七十五萬圓に過ぎずして之を奉天大連兩支店に分配して取扱ふ者なれば各申込に應じ能はざるは勿論なるが同支店に於ては充分査定を加へ能ふ限り民間要望を滿足せしむる筈因に正金特貸は續々來る十日大連に於て東拓に引繼がるべきが今後特貸金の回收せらるゝ分は悉く政府に返納するを以て七朱利子の特貸は現存七十五萬圓の貸出終ると同時に全く廢止さるゝものなり

採木組織變更

採木公司組織變更方の件は既報の如くなるが尚ほ仄聞する所によれば元來同公司は日支合辦にて公稱資本金三百萬圓を以て專ら鴨綠江[illegible]

滿洲側の不信[illegible]其の役員の如きも目的を以て組織さるゝまでを[illegible]…[illegible]

滿洲事情調査

滿鐵會社に於ては今回滿洲の現情を調査研究する爲め新たに社員を各地に派遣し調査課松原菊藏氏は昨日來奉して調査に從ひつゝあるが最初は奉天省より開始し吉黑兩省に及ぶ可しと

松花江結氷

松花江下流一帶は哈爾賓方面に比し更に冷なる爲め已に結氷せるも上流の松黑兩江會流の處は昨今盛んに流氷を見るも未だ結氷に至らず哈爾賓附近も未だ結氷せずと

慶殺公判再開

裁判長判決言渡を取消
職權を以て證人を喚問す

圖們郷書記竹中勇一家族慶殺被告[illegible]

[illegible]判決は本日言渡すべき筈なりしが[illegible]裁判長は被告[illegible]事件に對する強盗殺人放火被告事件に對つて其方等[illegible]四名を證人[illegible]鈴木△△小川儀八[illegible]として喚問すべしと告げたり[illegible]小川儀八は我々被告に對し不利益の證言を致しますから嚴重なる御調べを願ひますと[illegible]

◇娘らしく養てゐる爲に

［奉天滿鐵醫院の看護婦宿舍女教師によき人格の人を物色中］

◇奉天の滿鐵醫院では目下八十人の若い看護婦がまめ〳〵しく働いて居る、十五六歳から二十歳前後の少女達が此の植民地に働いて居るとは頗る健氣な大和撫子である、が尚ほ此の乙女等の多くは滿洲在住の人々の子女で或はまた内地から看護婦養成所に應募した人が少なくない

◇最初養成所に入る人は十五歳以上二十五歳以下に限られて毎年五月入學すると共に二箇年間の勉強をなし一年は學科一年は實習を終つた上一人前の看護婦となる、あとの三年目と四年目は義務年限で働かねばならぬ

◇かゝる次第で何れも妙齡の大切な年頃であれば此の教育及び監督には當事者もなか〳〵骨の折れる問題で種々苦心してよき方法を講究中だとの事

◇近く本年末には構内に建築した看護婦の合宿所が落成するので看護婦の乙女達はその方へ引越すこととなる、何分建築費は三萬圓を要したもので、スチームの通つた二階建の快よき部屋で一室數人の合宿さする

◇それで會社の方では愈よ八十人の人達に婦人の一通り心得べき教育を施したいといふので先生によき人格の人を物色中だが今に適當な人が見當らぬ由

◇宿舍内にては裁縫から割烹茶の湯活花等一切の婦人の嗜を教へたいとの希望である、看護婦の少女達にとつても幸福なと云はねばならぬ（奉天）

◎店員の拐帶

平壤南門町雜貨商荒木武雄方店員兵庫縣生れ岡部眞二郎（二三）は去る十月三十一日主人より發二浦の得意先に雜貨品價格三百五十圓の物を持參するとを命ぜられたるを奇貨として發二浦の得意先に右の雜貨品を預けたる儘何處共なく逃亡したりと

◎飛び乘り

十三日午後五時四十五分頃東大門行百六號電車が大門通を進行中義州通一八二金氏(三七)は電柱側より飛び乘らんとして電柱に衝突して負傷せり

特別大演習

▽金鵄城下より 青質生

◇今回の[illegible]大本營となりし事は[illegible]此の光榮に浴せる[illegible]根藩時代に於て如何なる[illegible]を有するかをたづぬるも興味ある[illegible]らざるべし、同校の表門に入れば左方は七百石御用人朝[illegible]家老[illegible]、これに並びて三千石の御家老[illegible]古措、道を距てゝ其の向ひは千六百石御用人大塚求之介、其の向ひは千石御家老[illegible]左衛門、其の隣は三百石御用人[illegible]、其の隣は[illegible]等の邸宅にて一町に二百四十坪から現に運動場となり、今同[illegible]四千石御家老長野[illegible]の邸にして此内長野は八十石の士大將格なり

◆右の家の祖先に戰功若くば勳功によりていづれも藩の重要なる役[illegible]所に干與せし各家にて殘る一家[illegible]新野古措の邸こそ今回御座所に充てらるゝ所なり古措は彥根藩主伊井直方中の十男にして直弼の兄なり

◆今同御座所の前庭に二個所の菊花壇を設けあるは古措が菊を愛して邸中に設けたる菊花壇の遺址として陛下の御臨幸あらせらるゝ地も廓内に於ける名家の遺址として曾ては藩士の文武を敎練せし所なり、右の地は後に師範學校となり[illegible]、曾て[illegible]は彥根[illegible]校となり居れり

◆南[illegible]の間を過ぎさせらるる關[illegible]若者を多く見受けたり、[illegible]は最早一世一代の光榮なる拜觀とて聞ねぬ耳を鍵て[illegible]る[illegible]の音を聞かんとし[illegible]顔を拜し[illegible]涙に咽べり、[illegible]に於ける九十歳以上の長壽者[illegible]するに百十歳を頭に百餘名に近き數を數ふ、江州は實に不老國[illegible]限りなり

▽演藝雜記帳（前略）歌舞伎座の人氣は素晴しきものにて本月二十三日までは一二等全部賣切れにて三等客の如きは午前八時より續々と詰めかけ門前列を爲す事一丁に及び開幕時刻十二時頃には[illegible]の通行一時止まる程人の山を築き申候由、一風家の田舍者は切見も六ツケ敷かとも被存候（後略）▲と[illegible]は目下東上中の日本麥酒の吉田氏から通信の一節である、歌舞伎座は帝劇と共に九代目團十郎の追善興行で出勘彌俳優は八百藏段四郎等九代目門下の連中は素より幹部連を始め近來になない大一座▲それに狂言は成田屋畑のものをコテ〳〵と盛上げ福三郎の改名披露もある、この破天荒の盛況は敢て怪しむには足らぬが豪勢なものである▲それにつけても情けないのは京城の劇界でいつになつたら大入の十日も續くやうな芝居なり景氣が來ることかと思ふと少々心細くならざるを得ない

流浪航の秘密後編

十五日夜より五日間[illegible]を催しつゝある[illegible]浪花節に[illegible]十五日夜より五日間[illegible]秘密後編十六日夜より[illegible]は十五日夜より[illegible]

演藝案内

有樂館 / 大正館 / 黃金館 / 壽座 [illegible]

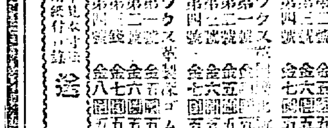
有樂館 早川演藝部直營 活動寫眞 [illegible]
大正館 電話八七三 [illegible]
黃金館 電話二六三七 [illegible]
壽座 早川演藝部直營出張撮影 十一月十日より十四日迄五日間限り 活動寫眞破天荒の連鎖劇 秀吉と石川五右衛門 [illegible] 人情劇 愛の不滅（全五卷）[illegible] 新派悲劇 白浪夜叉（全三卷）[illegible]

富の道しるべ 山縣五十雄・村上唯吉共著 價十五錢 郵稅二錢 京城太平通 京城日報社代理部 振替三〇〇番

朝鮮語會話
朝鮮總督府通譯 西村眞太郎著 第四版
背版法律部[illegible]
受驗者必携補珍總クロース四六倍判[illegible]定價[illegible]
一、此の書は朝鮮語を學ばむと欲する人の爲めに最も適切なる[illegible]
一、初學者は其の第一歩に於て良書を選ばざるべからず[illegible]
一、此の書は[illegible]
賣捌所 京城日報代理部
取次所 大阪屋號書店・京城日報代理部・東京[illegible]
振替京城三〇〇番

頭分けには 二葉ポマード
大阪久寶寺町 角倉支店
京城府明治町二丁目 コスメチック

内科 小兒科 入院隨意 中島醫院 院長 中島眞吉

信用ある東京三金の靴

ボックス革製編上靴 第一號 金五圓五十錢 第二號 金六圓五十錢 第三號 金七圓五十錢
ボックス深ゴム靴 第一號 金五圓五十錢 第二號 金六圓五十錢 第四號 金七圓五十錢
ボックス深ゴム靴 第一號 金五圓五十錢 第二號 金六圓五十錢 第三號 金七圓五十錢 第四號 金八圓五十錢
寸法書用紙御入用の方は進呈
東京市芝區愛宕下町
三金高等靴店
電話芝六九〇番・振替東京七壹壹番

入院隨意 普通病室隔離病室の設備あり
京城西小門町二〇一番地
田中丸病院
院長 醫學士 田中丸治平
副院長 醫師 上野和夫

醇良無双清酒

無害衛生品質無双
醸造元 福岡縣城島町 首藤合名會社
發賣元 京城府黄金町二丁目 首藤京城支店 電話長一七一番
釜山幸町 首藤釜山支店 電話長三四三番

内科 胃腸病 診察夜九時迄
京城本町一丁目
石川醫院
電話一二三七・九二〇九番

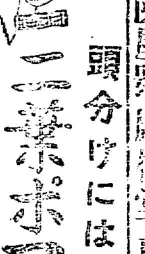
勳七等横山謙儀病氣の處養生不相叶去十三日死去候間此段告仕候
追て來る十六日午後四時途中葬列を廢し寺院に於て神式告別式執行致候猶供花放鳥等御辭退申上候
妻 横山三好
親戚總代 藤田九一郎
友人 醫學士 室谷修太郎
田中佐七郎
代 椎木宇之助

化粧品石鹸問屋ハコ、
伊勢勘號
大阪東區南久寶寺町三丁目
電話南長四一六番
振替大阪二八二五番
關西デ一番ヨク勉强シテ一番品揃ノヨイ

ト今延商店
大阪營業所 取引所仲買人
電話 [illegible]

イカイ胃散
胃病ならイの一番

本舗 大阪 江戸堀 猪飼史郎藥房
各藥店にあり



十五日後場 一節先限十九圓七十六錢と一錢安に寄付きたるが買物多く八十臺に[illegible]

十四日午時八時三十五分釜山入港 さくら丸 一二等客[illegible]

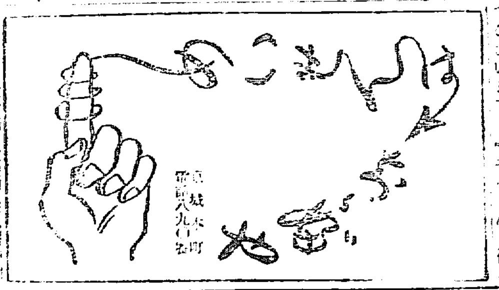
京城測候所 [illegible]

左甚五郎

第八十五席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

甚五郎は源吉を引取つて養ふのみならず母の方へ月々贈り物までいたします故、母親のおかつは嬉し涙にくれて喜んで居ります、源吉は生來器用な質と見えまして、教へることは一を聞いて十を知り、十を聞けば百を知るといふ譯ですから、甚五郎も大きに喜んで職を仕込んで居ります、光陰に關守なく、茲に五ケ年の星霜を送りまして源吉が十七歳となりました、甚五郎の仕事のことは何事によらず甚五郎に代つていたします處から仕事方の者は源吉を若棟梁〱と云つて居りまする、茲で甚五郎が源吉を四谷鹽町の母親の方へ還して通はせることにしたといふのは、女一人のこと故淋しからう、源吉も安心をするであらうと斯くいたしたのでございます、源吉は相變らず鹽町より日々通つて仕事をして居る、スルと新宿に出火があつて泰宗寺といふ寺が燒失いたしました、ところが講中の者の骨折で以前より立派に普請出來をいたし、又閻魔堂に至るまで出來上りましたが、此の泰宗寺の閻魔は雲慶の作で有名なものであつた處、惜しいことに燒けてしまひました、茲で當時高名の人に彫らせやうといふので、段々聞き合せまするに淺草諏訪町に甚五郎といふ者が御音堂の閻魔を彫つたといふことを聞きました故、此の人を頼まうといふので甚五郎方へ依頼いたしました、甚五郎は承知をして早速閻魔を彫ることになりましたが、源吉に贈して彼が器として選らうと思ひ、源吉を招んで此の事を申付けました、此の閻魔の處は據うして、あすこはあゝしてと自ら繪を描いて源吉の手を執つて教へまする、源吉は旨く[illegible]をして此の閻魔を彫上げました、甚五郎の教へとは云へ流石は甚五郎の弟子、一生懸命になつて彫上げました故最も見事なる閻魔が出來ました、甚五郎は甚く喜んで[illegible]後を彫きしたが[illegible]つた、此の二ツを泰宗寺の閻魔堂へ安置いたしまするければ泰宗寺の閻魔は耳の處に源吉力といふ銘が入つて居り、此は只今以て新宿二丁目泰宗寺の閻魔堂に儼然と殘つて居りまするが、是が爲に源吉の名前も高くなつて市中で噂をする樣になりました、源吉は相變らず母に孝行をして居りましたが、其の年の七月の十三日親父が死んだ七年目、心ばかりの法事を營やうと、今日は一日仕事を休み母親と二人で晴い内に寺詣りをして歸つて參り、前夜調理へて置いた精進物の膳部を拵へ長家中へ配り、坊さんを招んで佛檀には燈明を上げ供物を供へお經を上げて貰ひましたが、そこへ入つて來たのは家主の清左衞門「清」ハイ今日は「源」差配さんお出なさいまし「清」先程は大層結構なお膳を下すつて有難うございます「源」何うも恐入りました、ほんの心ばかりでございますが召上られる樣なものではございません「清」何だか阿母さんが料理をしたのかね「源」ハイ阿母が料理をしてくれました「清」何うも阿母さんは器用なものだ、素人料理のやうには思へない「かつ」何うも其の儀せでは恐入ります「清」時に源吉さん今日俺が來たのはお前さんに少し頼みたいことがあるので「源」何んでございます「清」[illegible]知だらう、此の通の地所は[illegible]太田さんといふ人が地主だ「源」太田さんで「清」左樣さ大層な者だと云ふことで、此の手で地所が二十七八箇所もある、餘程大きな地主だが、其の大將からお前さんに一ッ頼みたいと云ふことがあるので、俺からお願ひ申す



十一月十七日 九星
舊十月三日 癸亥
本命 一白 北建 赤口
[illegible]

寫眞
京城日報社 寫眞製版部
寫眞銅版 寫眞凸版 亞鉛版

強胃消化劑 マーゲン
本舖 大阪市上本町 田畑保榮藥房
特約店 京城南大門通二 新井藥房

牛乳
御用 陸軍病院 朝鮮ホテル
京城東四軒町 岡野牧場 電話一〇六九

子宮病が治らぬとは

（多くの婦人は子宮病の治療を誤まつて居る 治療の方法さへ好ければ難治のもので無い）

一口に子宮病といつたら甚だ漠然たるもので其の種類は澤山で一々說明する事は容易でないから子宮の最も普通の場合に付て述べやう

白帯下の容態

[illegible]

白帯下の治療法

[illegible]

白帯下の原因

[illegible]

加減藥の購入法

此の加減藥ばかりは本舖以外には販賣して居りませぬ故御求めの時は御自分の御容態を詳しく（假名でも何んでもよろしい）書いて一週間分なれば一圓、三週間分は二圓七十錢を振替で御送金下されば、スグ本舖は御身體に適したクスリを送つて差上升。振替送金法の御存じ無い方は郵便局で御聞き下さい。振替番號は東京本舖は東京六〇八大阪支店は大阪四五六番です。又代金引替でも普通の御申越しでも宜しくムいます

鼻が高くなる
隆鼻器無料貸與

月やく

かぜつきぬ カゼヤピリン
面白い程よくきく良藥なり かぜは藥が必ず本劑を服し定て常に家庭に備へ少しでもかぜの氣味あらば遲れず手遅せぬ樣直ぐ服用せよ
小兒カゼヤピリン 小兒には專用
アンチピリン アスピリン
本舖 名古屋京町二 荒川長太郎

盲目に 目藥に 直治水 スグに効ある目藥!!
直治水
特長 ○眼科高貴新藥を配伍す ○タツタ一瓶にて効驗現はる ○根本的に視力を強くす
主効 ○○はやりめ ○○かすみめ ○○やにめ ○○うみめ ○○めくさめ
圏外の眼藥で効なき人試よ
新式点眼器付十錢、廿錢郵税二錢
全國各藥店に取次す
本舖 大阪・東京 丹平商會藥房

水の滴れるやうな艶つぽい美しい黑髪とする
ホーカー美髪液
定價 小三十五錢 大 送料 内地無料 滿鮮三十錢
本舖 堀越嘉太郎商店 東京神田 電話 振替東京

ホシ人參製劑

藥用人參中の最高權威 ホシ人參製劑

神經衰弱＝ヒステリー＝精力減退＝貧血＝肺病 リウマチス＝子宮病血の道＝神經痛＝眩暈 營養不良＝老衰＝陰萎＝腎臓炎＝等に効あり

人參は精力を盛にし、腦力を強め、血行を良くし、身体を強壯になす効果あり、不老長壽の靈藥として珍重され、古來より盛に賞用せられたるものにして、殊に一大産地たる支那に於ては、專ら精力増補の目的を以て需要旺盛を極め、本邦に於ても近時諸種の疾病に賞用金言となり、其効果一般に認識せられてより、近來

種々の人參製劑續出して、是を飮用せんと欲するも、時に選擇に迷はせ給ふ程なり。

人參中最も信用あるは朝鮮總督府の管下たる開城産のものにして、其効果も亦他に産するものに比し遙に優越す。されど往々不良なる類似品ありて、眞正純良なるは極めて得難し。ホシ人參製劑は人參研究のオーソリチーにして、朝鮮總督府顧問たる醫科大學の三宅博士が、本場開城産の逸品中より優良のものを選擇し、是を化學的に精製せるものなるが故に、數ある人參製劑中最も確實なるものなり

種類	
ホシ人參丸	廿錢 五十錢 一圓 二圓
ホシ人參錠	五十錢 一圓
ホシ人參末	五十錢 一圓 三圓 五圓
ホシ人參エキス	五十錢 一圓 三圓 五圓
ホシ人參葡萄酒	一圓五十錢
ホシ朝鮮人參（生）	一圓 二圓 三圓 五圓
効能は何れも同じ	

古來人參は諸種の漢藥中無上の靈藥として珍重せられ、是を得んが爲めに産を傾け、人身を賣買したるが如き例に乏しからざるは、世人のよく知る處なり。然るに明治維新後歐米の文明が輸入せられ、之が崇拜の熱高潮に達したる結果漢藥を說き、草根木皮を口にする者は、冷笑せらるゝが如き狀態となり、從つて需用頓に衰へ、遂に久しく其影をさへ絕ち、人參の名稱すら忘らるゝに至れり。然るに米國人ラフイネスク氏を嚆矢として、多くの學者間に人參の化學的研究行はれたる結果、滋養強壯劑として最も優秀なる偉効を有することを發見せられ、近來再び人參需用の聲を盛に耳にするに至れるものなり、藥用人參は日本、支那、米國、朝鮮等に産出すれども、最も優れたるは朝鮮産の物にして、其本場たる開城附近八邦は朝鮮の内に於ても更に優良なる人參を産出する所なり。而して人參の純良なるものは甚しく高價なるものにして、曾て李完用伯は目方九十匁の人參一本を、三千圓の價を以て買ひたりと言ふ程なり。されば多くの人參製劑は本場産のものを原料とするに堪えずして、竊に他のものを原料に混入しつゝあるもの尠なからず、然るに本社のホシ人參製劑は絕對に朝鮮開城産の人參のみを原料とせるものにして各種人參中の最高權威たるものなり。最近青森縣弘前市元寺町十九番地桃木全治氏が本劑を服用して强烈なる神經衰弱を全治し、剩さへ僅三ケ月にして、其體重一貫六百九十匁の増加を見たるが如きはホシ人參製劑の偉効を證する顯著なる生きたる事實にして、如何に優秀なるかを證明するものなり。

發賣元 東京京橋南傳馬町三丁目 星製藥株式會社 電話京橋一七八五 振替二〇五三二

京城日報　第五版

十六日朝刊（夕刊併せて八頁）

東京より

一記者

十三日

○今月初露國假政府と、過激派との間に大衝突を惹起し、何日を出ですして假政府は倒れ、露都はレニン氏一派の社會主義者の支配の下に在り、假政府首相ケレンスキー氏は逃れてプスコウに赴き大元帥の資格を以て軍隊に命令を發し、祖國の爲めに奮闘すべきことを告諭したりと云ふも、軍隊中其命を奉ずるもの果して若干ありや殆ど知るべからず、之に對して露都に於ける新政府なるもの亦政府たるの實なきや勿論にして、此に露國は全く無政府の國たるの姿となれり。

○夫れ人世戰爭ほど甚るべきものはなく、戰爭して敗るゝを最も甚るべしと爲す、露西亞の革命の原因は一二にして足らずと雖も、其主因は此度の戰役に於て敗北を招きたるにあり、戰て敗る、則ち其兵力は減じ、其財政經濟は大打撃を受く、ロマノフ朝も其政府も、畢竟其責任を引きて退讓したるものに外ならざるなり、假に新政府[illegible]獨逸に單獨講和を企てず、飽まで戰ふべきことを標榜したれども其力足らずしてリガを奪はれ、波羅的海は敵の支配の下に落つ、最近の政變の起因亦此失敗の爲めなりと云はざるべからず、過日首相ケレンスキー氏は露國の力は既に盡きたり、戰爭は他の協商國民の任務なりと公言し、此度の新政府亦速かに戰鬪を休止すべきことを宣布す

已ち是れ革命の理由が發動したるものに外ならずと雖も、戰爭は力なり、兵力なきものに此に役に立たざる所なり。

○然しながら露西亞が假令單獨講和を顧ふとも、單獨講和をなし得べき道理なし、戰後露國に於て戰鬪能力なきは敵も味方も共に知るところなり、然れども獨逸の目的は單に講和にあらずして、露西亞をして聯合國の外に立たしむるにあり、其のリガ方面の大陸に一活躍を示して露人を威壓し、直ちに其餘勢を以て伊太利を衝きたるは、露國の爲すなきを認めて後顧の虞なきが爲めなり、獨逸の[illegible]伊太利を蹂躙し、地中海を我物顔に支配するにあり、是れ獨逸一度之を企てゝ併まざる所のトランシルヴァニアに進入せる爲めに之を中止したること此の際完全の計畫にして、今日露國を顧みるの必要なきを知り、再び之を企てたるものに過ぎず、獨逸も露國と戰ふを欲せず、併ながらこれと和を講ずるの意思も亦これ無し。

○且露人中或は單獨講和を望むものあるべし、然りと雖も講和の如き重大事に、確實なる政府ありて之を纏むべくして、政府なき露西亞は之をなす能はず、獨逸とても實力無き無責任なるものと和を講じて、自己の腹心を無益に吐露するをなかるべきものなり、特に國際戰役は敵も味方も共に連帶なり、或一國が和を講じたりとて後日更に國際會議に依りて之を變更せらるべきは最も見易き所にして、今

支那漫遊

北海の大觀

蘇峯生

前日南海を見、今又た北海を見る。而して北海の觀は、南海に比して、更らに大也。宮城西華門の西に逝あり。所謂る西苑也其中に玉泉山の水を引きたる巨浸あり、之を太液池と稱す。其池を三分して、一を北海と云ひ、二を中海と云ひ、三を南海と云ふ。今や大總統府は、中海と、南海との間にあり。北海と、中海との間に橋あり、玉蝀橋と云ふ。予等は團城を貫き、過般約法會議の場所たりし承光殿を過ぎ、瓊華島に赴く、島中に永安寺あり、東光寺と云ふ、其上に山あり、白塔山と云ふ、山頂に大喇嘛塔あり。此の山頂に登れば、宮城の最高所たる景山の五樓閣は、殆んど手に取る可し。而して北京の鳥瞰圖は拭ふが如き秋天の下に、鮮明に披展せらる。予は此山に登りて、實に北京が一大森林たるに氣附けり。而して其樹は、古槐、老楊柳、及び柏樹也。更らに眼を騁すれば、近郊の古塔、巨閣は勿論、大行の山脈、蜿蜒として天外に起りつゝあるを望む。斯くて予等は北海より山を下り、蟠龍の樓閣、同廊を過ぎ、乾隆帝三希堂法帖の石刻を、其の周圍に嵌めたる碑屋に趨き、其の精美なるに垂涎し、茲に瓊華島を一週したり。瓊華島は『永世凱若し天子たらば、之を皇太子、即ち袁克定の宮殿となす可く、準備したりとの事にて、其爲めにや、東光寺の佛像も取り除けられ、一切の家屋其他、聊か修理の痕なきにあらず。されど最近復辟騒動の際、共和軍の占領したる後なれば、其の狼藉や知る可きのみ。但た依然舊觀を改めざるは、牛溲馬勃の中に屹立したる、乾隆御製『瓊島春陰』の詩碑と、喇嘛塔と、三希堂の石刻のみ。

大正六年十月十八日午前六時 北京にて

姉川の役を想ふ

東京にて　青萍生

今回の大演習は江濃の野に於て行はれしが、其の昔江濃尾參遠諸州に於ける姉川の役をば此地に求めて想起し、同戰の起因及び役前の形勢、戰の作戰、戰後の動靜及び結果を見るに興味と深きものあり、姉川の役は人も知る如く、桶狹間の役に千年にしてあり、織田信長は徳川家康と共に南軍を成し、淺井長政は朝倉義景の將士と共に北軍を成し江濃尾參遠等數州の兵相會して一地に對抗したる著名なる大戰なり

織田信長夙に勤王の志を懷き、既に桶狹間に於て一擧に[illegible]を取り岐阜城に徙り又足利義昭の備話を受け幕府の興復を謀し伊勢の北部及び近江の東南を攻略して京師に入り近畿を平定し宮闕を修繕し將に政令を四方に布かんとし先づ越前の朝倉を撃ち遂に北進近江の淺井を滅ぼすを圖るに至れり。

淺井は長政の祖亮政始めて小谷山に城きて之に據り守護京極高清を奉じて湖北六郡を領し勢威漸く大なり然るに亮政の子久政擁怯文弱にして宴樂に耽り兵力稍衰ふ乃ち將士之を廢し久政の子長政を擁立す而して長政が湖南守護六角定頼及び其子義賢（承禎）と戰ふや朝倉孝景及び其子義景常に兵を派して之を援助せり朝倉は義景十一世

（イ）南軍作戰計畫及び處置

▲南軍

元龜元年六月信長は淺井長政綱親の誼を棄て、朝倉に黨するを怒り之を討滅せんと欲し十一日再び兵を家康に求め十九日兵凡三萬人を率ゐて岐阜を發し二十一日織田信包、丹羽長秀、水野信元を横山城の監視に任じ本軍は直に小谷城に向ひ森可成、坂井政尚等をして雲雀山に陣し城下の民家を焼かしめ自ら虎御前山に登し柴田勝家、佐久間信盛、木下秀吉及び堀秀村等に命じ城外四近に放火せしむ、城兵出でず、信長諸將を召し戰略を議す信盛曰く急に城を拔かんとせば兵三分の一を損せん且つ越前の

[illegible]二十三日信長は更に木梁を龍ヶ鼻に移し二十四日全軍横山城を攻略し小谷城兵を平野に誘致せんとするものなり

北正面 池田信輝、阪井政尚、
木下秀吉
南正面 森可成、丹羽長秀、蜂
屋頼隆
東正面 柴田勝家、織田信包、
氏家直元、安藤範俊
西正面 佐久間信盛、稻葉通朝
父子、水野信元、市橋長利、河
尻鎭吉

二十七日徳川家康兵五千を率ゐて來り會し[illegible]

本軍 織田勢約二萬三千
第一隊 坂井政尚 三千
第二隊 池田信輝 三千
第三隊 木下秀吉 三千
第四隊 柴田勝家 三千
第五隊 森 可成 三千
第六隊 佐久間信盛 三千
本陣 織田信長 五千
横山城 丹羽長秀 三千 ○氏家直元千、安藤範俊千、稻葉通朝千
支軍 徳川勢
第一隊 酒井忠次 千
第二隊 小笠原長忠 千
第三隊 石川數正 千
本陣 徳川家康 二千
後詰 稻葉通朝 千

十八日午前三時[illegible]使の役を[illegible]促し織田軍は龍ヶ鼻より北に進み姉川に臨して陣し徳川軍は上段より北進して[illegible]

誰

布施生譯　（125）

『ね、藏部樣は毎晩のやうに、彼處へ在るのでございますよ。』そして被るに御機嫌で、『鈴富は此の大泥棒だつて、縫さんが藏部だねた『何んかで、人殺しの奴と會ふんかい』と怒鳴りながら老人に向ひ『御老人、貴君の御工風でございますか、貴君は人を馬鹿だと思つて居るのですか。』『おだまりなさい、君の馬鹿には倦果てましたぢや、君が自分で自分の處置がつかないのはそれで可い、せめて私の邪魔はせんで下さい』『箆めておいて今度は優しく美那子に向ひ『それから？』『それから？どうしたね』美那子は元氣なく『いゝね實はまだ何も分りませんのよ、唯さうぢやあ無いかと疑ふ丈ですの、どんな事をお訊ねになりますと…』

『何だか私の心が知れませんがね、れが又何か虫が知らせる、と謂ふのも可笑いかも知れませんが、どうも此頃お邸の中が變に樂つたやうでございますのよ、奥樣は宛然幽靈のやうにお成りなさつて滅多に口はお聞きなさいません、いゝえ奥樣には何か御樣子が隱事をなさつて彼處へお出でございますわ』『旦那樣はどう彼成つて彼處へ被入らつしやるか存じませんが、ねえ旦那樣に申上げたんでございますよ、旦那樣はそれを何か樂つた事がお有りなさるかも知れないと思ひます、昨日でしたと云ふのはあんなぢや無いか、全く歩いてばかり被在るんでございますわ、お屋敷まで鑵りましてね、お嬢樣も坊ちやんも連まで『でしやうか、何か若い事をなしながらふら〳〵歩いてばかりいらつしやいまし、いつもお優しい方だすのに、お叱りなさいましては仕樣がございませんよ、私共皆をお叱りなさるんでございますわ、何だか大變な事を企らんで被在るやうなんでございますが、就中奥樣を御覽なんか藏部樣がお越しになりまして、お部屋から飛出して、突然飛上つてお仕舞になるんでございますよ』

『老人は横手を拍たぬばかりに鈴富の方に向ひ『そら言はない事ぢやあ無い、保部老人は自分が怖いのぢや、老人は君が道つた途方もない手紙の證據を握らうとしてゐるんぢや』傍から美那子は聽つた所あるらしく頷いて『おやそれぢやあ旦那樣にやうに思召して被在るのちや、それは分りましたのね』『いや分つたかしお耳に這入つたのは真正の事でないから困るのぢや、それはさうと奥樣やお嬢樣は昨晩お外出になつたかい』『はい、遅くなつてからお出懸けでございましたわ』『旦那樣は、どんな御樣子であつたね』『存じませんわ、私も奥樣のお伴を致しましたから』『ちやあ多分留守中に何か探物をなすつたらう』鈴富は恐い眼を鈴富の方に向けた、老人は復恐い眼を鈴富の方に向けたよ』鈴富はもう一言も返しきらないで閉口する外は無かつた、美那子は思はずぽんと横手を拍つて『それで分りました、どうして變な事だと思つて居りましたが、實は藏部樣がね、小使をお喚びなすつて宅へ來た手紙は誰に宛てたのでも可いから皆己の處へ持てきて見せろ、見せなけりや直に暇を出してしまふぞと恐ろしい權幕で仰有つたさうでございますよ』

朴淵觀瀑　藤倉 蘭陵
[illegible]
竹田 菊雨
[illegible]
田淵 紫州
[illegible]
西村 秋湖
[illegible]
兒島 九皐
[illegible]

▶新工業は勃興せり諸君は須く本書を活用せらるべし◀

工業大辭書

工業學界の權威たる工業大辭書は凡百工業の顧問たり指導者たり

各種工業の勃興と共に本書の要求は日と共に甚切なるものあり茲に增刷一千部を得て之を我新興工業界に提供す

本書は專門大家百七十五名の執筆に成り大小輕重總べて漏らさず一問題に對しても三方四方より解說せられ一々署名して責任を明にせられたれば本書一部だに手にせば工業上一切の知識も秘密も總べて之を諸君の掌中に藏し得て恰も專門大家を聘し顧問とする如し

特賣

各方面より異常の歡迎にて申込激增す

特賣部數限あり申込は即時

製本出來即時送本

特製背革
裝釘全五册
紙數四千五
百六十六頁
解說語數六千七百
挿入木版一万千個
着色版十九頁
寫眞版二百一頁
木版刷百廿八頁
凸版十五個

一時拂
定價金六拾五圓
特價四拾八圓
送料 內地金一圓十六錢 臺灣・樺太・朝鮮・支那 金二圓四十五錢
但し東京市內は送料不要

月賦拂
毎月金五圓宛十一回拂込
會計金五十五圓
第一回拂込と共に全五册送本す（以後十回五圓宛計十一回拂込）
送料は一時拂と同じ

月賦拂込の方法は內容見本にあり

內容見本 申込次第進呈 郵券二錢を要す

東京神田表神保町
株式會社 同文館
振替貯金東京一三三五、電話本局四三七、三三六七番

發行所 京城大和町 京城日報社
電話番號 [illegible]
振替貯金口座京城三〇〇番
本紙定價 一ヶ月金五十錢 [illegible]
廣告料 [illegible]

大阪　十五日後場　下押歩止
常限寄付 二十五圓十八錢
中限寄付 二十四圓三十六錢
大阪の跡高移りに八十錢より六十錢と跳ね結局九錢を大混戰裡に打止めたり
當限四節二十圓五十錢

仁川米豆取引所
平均 三節 十九圓八十 [illegible]
限四節 十九圓八十五錢

○對露休戰要求
維納市民大會にて

維納市に於て市民大會開かれ會するもの無慮五萬に達し速かに露國と休戰すべき事を切言せり(維納電報)

露國の政變

▲過激派聯隊悉く降伏
哥薩克兵と衝突して

哥薩克兵は露都に侵入し要塞及各要地を占領しペプチエブスキーにて過激派軍隊と衝突したるが過激派の聯隊は悉く降伏したり(電報)

▲政府軍ツアルスコエ、セロ奪還

ツアルスコエ、セロは十二日午後に至り再び過激派聯隊の占領せられ無線電信其他通信機關は彼等の手に在りたり故に十二日より十三日に亙る露都よりの報道は過激派の勝利を報じたるも十三日午後に至り哥薩克兵は露都に侵入して過激派軍潰亂し此の結果はツアルスコエ、セロの無線電信局及通信機關は再び政府軍の手に歸せるものゝ如し(倫敦電報)

▲コ將軍露都に入る

コルニロフ將軍は今や露都にあり(倫敦電報)

▲芬蘭の對獨布告

芬蘭は獨逸に對して戰爭狀態にある旨布告せり(倫敦電報)

○英軍事會議準備

英國議會は[illegible]分十五日の[illegible]場に於て聯合軍事會議の計畫に就き討議すべく豫期せらる(倫敦電報)

○外相伏奏
彦根にて重要外交事項を

本野外相は十四日午後十一時急遽東京驛出發十五日午後零時彦根に著し大元帥陛下に拜謁仰付けられ闕下に外交上の重要事項を奏上したる後直ちに歸京の途に就き十六日朝東京驛著の筈なり(東京特電)

▲外相通過 本野外相は十五日突如彦根に赴き何事か陛下に奏上したる上即夜引還せり(大阪特電)

○首相次官凝議

寺内首相は十五日午前十一時山田陸軍次官を首相官邸に招致して長時間何事をか凝議する所ありたり(東京特電)

○目賀田男一行
紐育へ到著

日本經濟調査委員目賀田男一行は西部滿洲にて到る處歡待を受け十三日紐育に著したり(紐育特電)

○勝田藏相下阪

勝田藏相は十五日朝來阪同夜經濟會に於て一場の經濟演説を爲せり(大阪特電)

○隈部總長東上

隈部警務總長は中村都督の電招に依り十五日午前發嘉義丸にて東上したり(大邱電話)

○久保局長歸任

久保滿鐵京城管理局長は十五日午後八時發列車にて歸任したり(大連電話)

○藤井師團長一行

藤井師團長以下戰蹟見學の將校團は十五日午後五時三十分安東縣著十七日午前十時三十分歸隊の筈(安東縣特電)

○馬鎭守使歸奉

黑龍省方面に出張中の馬鎭守使は十五日午後歸奉せり(安東特電)

○教育視察團動靜

十六日京城の[illegible]總督府主催敎育視察團一行の通り安東縣著、各方面視[illegible]

◎滿洲特産觀測

滿洲特産物の出廻は愈々繁盛期に[illegible]銀行は前年の如く盛んに貸出し[illegible]はざるの事情あるを以て[illegible]込なく歐米行豆油も目下の處にて[illegible]は輸出困難なり兩方面の需要にし[illegible]ての如ければ滿洲に於ける[illegible]

◎群山
▲署長更任 寺島才二郎氏は群山警察署長として[illegible]

◎鐵道倉庫野積保管場の新設

滿洲安東の陣地に別れて[illegible]十六日[illegible]京の途に就く筈(電[illegible])

京管局の滯貨對應策 滿鐵京管局にては全鮮出荷期に入りたるため止むを得ざる滯貨に對する對應設備として[illegible]倉庫の新設並に野積保管場の指定を行ふ事となりしが[illegible]倉庫の新設個所は左の如し

▲倉庫の新設 十一月[illegible]日より開倉[illegible]倉庫を開[illegible]江[illegible]及し十二月一日より[illegible]仁の四驛倉庫を開設し更に十二月二十五日より湖南線井邑長城、兩驛倉庫開業上記の分は何れも建坪六十坪宛也又釜山埠頭に鐵道大倉庫は未だ確定せざるも多分年内に竣工すべく其の坪數は釜山の

▲野積保管場 野積保管場の新設は十一ケ所坪數七百坪にして其の驛名は左の如し

京釜線 烏山、水原 慶山、倭館
京義線 金郊、汗浦、沙里院
湖南線 論山
京元線 鐵原、漣川

又野積保管場の増設は二十二個所二千零三十坪なるが右は倉庫の設備なき所並に倉庫の設備ある所を混同し居れり

京釜線 西井里、清道、大邱、永同、平澤
京 線 水[illegible]、[illegible]、汝山、開城、南川、新[illegible]、安州、新幕[illegible]
湖南線、[illegible]江景、裡里、金堤
京元線 金谷、元山

右二千七[illegible]坪[illegible]野積保管場増設は一坪七噸平均を保管し得べきものとし約二萬噸を收容し得べし

△本營業開始は明春とす 三江口まで假營業をしてゐる、四鄭線は四平街から鄭家屯へ鐵道の敷設をなし得る豫定だそうだが全線の内[illegible]支那[illegible]局の方針らしい、三江口から鄭家屯まで支那馬車で旅行したが支那側の滿洲に來てゐることを感じは茲で初めて切感した、滿洲に出た東拓の金融[illegible]に於ける活動は內地ばかりか云ふ樣なものを設けすに確かな[illegible]生産事業や其他にして[illegible]の計す[illegible]に於てドシドシ[illegible]思ひ切つてやるが好いと思ふ

◎南北滿洲を觀察して
入江拓殖局書記官の車中談

十五日夜入京せし前總督府拓殖課長拓殖局書記官入江海平氏は目下の際は匆々の際に過般東京へ轉任の際は匆々の際

△各方面へ 大に敬意を失しましたが今回は三日ばかり滯京するから共間お暇乞ひやら挨拶やら出來る丈けしやうと思ふ、私の滿洲觀察ですか、何分全く知らない土地だから職務上一應視察をして置く必要があり先月十八日大連上陸以來大連旅順を振出しに漸次各主要地を歷訪しつゝハルビンまで行き更に吉林に往復し假營業中の四鄭鐵道を三江口まで便乘、三江口から鄭家屯を訪ひ安奉線の要地を經本日京城に著した譯です、朝鮮は總督府に仕官時代可なりアチコチ廻つて知つてゐるから今度は京城ばかりにしか寄らない事にした、滿洲は概して豫想よりよく開けてゐる、病院にしろ學校にせよ道路にせよ

△滿鐵の 豐かな資本の投下を見大規模に經營されてゐるからいかにも豪壯である、色々滿洲に對する惡口も開かねではないが、要するに滿洲殊に北滿は工業原料豐富で燃料勞力等の供給に於て內地や朝鮮より優位に立つてゐるから之れに十分の資本を注入すれば餘程事業界は盛んになつて行くと思ふ、既に昨年來から其の傾があり奉天の如き特に活況を認めた、在滿邦人も腰を下して眞面目に其職務に努めてゐるらしい而今は滿洲特産たる大豆の出廻りが始まつて殊に開原以北は其の停[illegible]

△[illegible]も活氣[illegible]を[illegible]る時期に入る譯である、ハルビンに行つたのは本月の初めだつたが物騷と云ふ風評高く邦人は何人もピストルを携へてゐると云ふ事實は噂程でもないらしい、然し一事は二日の滯在中夜間は全く外出せなんだ、吉林は丁度往復だつたが恰度孟吉林督軍の轉任反抗に對する調停のため北京より吉林に行つた調停使が吉林を立つのと一所になつた、其時停車場には孟氏や兵隊などが澤山來て可なり賑[illegible]

□開海線問題
開原にて 十一月十日 中島司

鐵嶺から下り坂に向ひ、開原が日に月に發達に向ひ居れるは事質なるが如し。奧地物産の鐵路に集まる關係に、開原を望む事の有利なる關係に在るは其有力の原因とすべきか殊に今後開海鐵道の敷設を見ば、開原の發展は目覺ましきものあらむ開海鐵道とは、滿鐵本線開原より西方に掬鹿、大疙瘩等の人口集團地を過ぎ海龍に到る線にして、海龍は松花江上流に在り。前記各地及び山城子方面は、奉天長春間の滿鐵幹線を底邊とし、自頭山を頂點とせる三角形內に包含せらるゝ、頗る天產饒多の地方にして、經濟上海龍線の發達を實現するに當りて、滿鐵の經營線として、即ち此の開海線の價値甚だ大なるは、此の三角形內に於ける松花江上流一帶の林產、鑛產、農產は、若し開海線敷設の曉には彩しく輻輳し來るべく、開原の日に至るものは、質に開海鐵道實現の日を樂しみに、今日の施設をなし居るものと謂ふも不可なき也。但だ、此處に問題とすべきは、北方なる四平街より海龍に至る所謂四鄭線との爭奪如何なり。支那側に在りては、將に四平街鄭家屯間の四鄭線の開通を見んとする際此の四鄭線には、豫想外の資金を注ぎ込み、且つは其の線路の經濟價値は餘り重大ならざる等の關係よりして、更に四平街より線路を海龍城に延長し、此の新線の利益によりて、四鄭線と併せ、有利の經營を試みむと希望するもの、如く、希望としては、尤もなれども之を實現するに當りて、先づ大問題とすべきは、工事上の不便を如何にするかに在り。蓋し四平街より海龍に赴くには、一體に山岳起伏するが故に、頗る鐵路の建設に困難の伴ふ事多きに反し、開原よりすれば、山岳も少なく、工事甚だ容易なり。加之、產物の南下して大連又は釜山に赴くものとすれば、四海線は北向きに上りて滿鐵本線に連絡するが故に、開海線は滿鐵本線に直角に連絡するが故に、否寧ろ南向きに下りて連絡するが故に、捷路たりと做すべし。此の點に於て、開海線の最も望ましく、且つ最も有利なるを疑ふ能はず。當局者と雖も能く見る處あらむ。斯くの如きオルタネーチブの問題に對しては、最も自然的にして最も經濟的なるを採擇して、之に向つて充分の努力を盡さむ事を希望に堪へざる也。但だ支那側當局の眼識如何を疑ふのみ。以て之に誨へて可なり。

○北兵貴軍と交戰

北軍と貴州軍との間に戰鬪開始せられ四川省に於ける雲南軍の形勢は混沌として雲南軍は二個師團と砲三門、若干の機關銃にて編成せる軍の進行しつゝあり(重慶特電)

○雲南軍妥協提議

形勢一層險惡となり雲南軍は再び妥協を提議せるも四川軍は雲南軍が省境以外に立退かされば休戰せずと云へり(重慶特電)

◎平壤商議候補

平壤商業會議所評議員改選期は[illegible]るゝより各候補者の間に運動も盛んなるが[illegible]に於て[illegible]及び有志新聞記者等は十五日午後一時より武德殿に[illegible]を開催し[illegible]候補者推薦の事に就き懇談し各自意見交換の後結局十六名(氏名は次號に通信す)を推薦せり(平壤電話)

[illegible]込み、人江氏はそれからそれへと[illegible]攻め寄せ[illegible]て[illegible]數が多くて[illegible]引張り廻られるらしい

◎鮮債應募額

[illegible]平壤に於ける朝鮮事業公債應募額は五萬一千二百圓に達せり

◎香港總督入京

英國香港總督ヘンリー、メー氏は同秘書官一名と共に[illegible]の目的にて[illegible]十五日夜入京朝鮮ホテルに投宿したり

◎持地局長歸任

[illegible]持地六三郎氏は[illegible]十五日夜歸任せり

◎入江書記官

[illegible]入江拓殖局書記官は十五日午後七時[illegible]大門驛に著し[illegible]十六日午前八時四十分南大門驛發列車にて陸路歸東す

◎鹽澤大佐催宴

京畿道警務部長鹽澤大佐は京畿道警察署長會同を機とし來る十八日午後六時明月館に於て饗宴を開き各警察署長の一部及び新聞記者等を招待の筈

◎故吉原三郎氏追悼會

十七日は前東拓總裁故從三位勳二等吉原三郎氏一周年忌辰に付き原田金之祐氏外二十三名發起となり同日午後一時より南山町京城ホテルに於て追悼會執行すべし

◎西崎會頭入京

鎭南浦會議所會頭西崎鶴太郎氏は內地旅行の途次十五日夜入京南浦尾投宿十七日朝南行すべし

人事

▲酒匂秀一氏(鐵嶺領事) 十五日夜入京朝鮮ホテルへ
▲松[illegible]作氏(朝鮮銀行營業部) 滿洲方面視察中の[illegible]十五日夜歸任

百聞百種

花井大使一行[illegible]の竹下海軍中將が在米陸海軍武官と共に郊外オイスターベーにルーズベルト氏を訪ねた時▲氏は古ぼけた小さい家に家族の外に二人の女中を使つて居る計りの樸質さであつて▲客の送迎から使ひ走りまで一切一人で切廻して行くのには驚く▲氏は先づ盃を擧げて皇室の萬歲を唱し次に米國大統領の爲に盃を擧げ更に三度兩國恒久の友誼を祝福して言を擧げ▲其れから滔々と世界の局に對する抱負を吐露して曰く▲今次の大戰後は必ず永遠の平和を將來するが如く說くものがあるが夫は痴人の夢で戰爭の機會を少くすることは能ふべきも戰爭の絶滅を期することは到底出來得る業ではない▲微兵制度は要するに戰爭に對する唯一の保險法で若し米國にして豫め微兵の制度を採つて居たならば恐らく獨逸との戰爭を避け得たであらう』と喝破して米國參戰の意義を明にし▲聯合國殊に日英兩國が鐵火によりて獲得した獨領の保有は當然の報酬である』と說いて日本の占領地獲得に裏書をした▲話が濟むと氏はやをら起つて日露平和條約締結後我が明治天皇から御贈與の寶刀と東鄕大將から贈られた小い甲冑とを示し歎美の情を表した▲赤穗四十七士の事蹟も亦ル氏が歎賞の的で壯美の二字を其物語の上に加へて話した▲次に示されたのは誰あらう當の怨敵獨帝ウキルヘルムが一千九百十年ル氏と轡を並べて伯林郊外で閱兵式に臨んでゐる寫眞であつて其裏には獨帝親らペンを走らせて『アングロサクソンとチユートンと協同する時は世界の秩序を保ち得』ウキルヘルム』と書付られてあつた▲偖氏は其四人の愛兒を歐洲戰場に送つたが其內の一人である末子はトランシルバニア號で地中海航行中獨艇の襲擊を受け危く逐艦隊の爲に救はれたといふので氏は我艦隊の功績を賞し感謝の意を表したさうである

破產宣告公告
李瑶均
右之者ニ對シ破產ヲ宣告シタリ詳細ハ本年十一月三日朝鮮總督府官報ニアリ
京城地方法院

松、外、武、[illegible]
一、押角材、坂
右賣拂入札詳細ハ朝鮮總督府官報ニ見ヨ
朝鮮總督府

古亞鉛板拂下
一、首印武拾八番古亞鉛板一枚モノ武萬參千八百枚
一、端モノ武千五百枚
右入札拂下ヲ爲ス希望者ハ官報ヲ見ルベシ
大正六年十一月
朝鮮總督府度支部專賣課
廣梁灣出張所

天下一品
寶屋式製繩機
[illegible]

古鐵商
京城北米倉町百地
十二番線及鐵條網拾合
有好金物店
電話一五四[illegible]番

御名刺印刷
コロタイプ石版活版美術印刷
地方は小包にて迅速調進
需に應じ可申候
京城長谷川町百五番地
中田普成社
電話二一〇五番
振替京城四六二七

防寒靴 製造販賣
並に毛皮なめし
壹圓六拾五錢以上其他スリツパ
地方の注文は代金引替にて郵送
京城黃金町三丁目
大阪屋

最新刊
此處に道あり 大町桂月
世界と共に覺めよ 海老名彈正
桂月學生文範 上 大町桂月
演說法 講話 加藤咄堂
實用作文寶鑑 大町桂月
能の見方「謡」の聞き方 池内信嘉
狂理性及び勇氣 與謝野晶子
基督教と近世思潮 萩原清次郎
婦人よろづ手紙 窪田空穗
海の自然科學 若林欽
一品三錢で出來るおいしい料理 東京學生料理
最新副業案內 東京學生副業
現代藝妓十講 正岡夫
し20の手紙(內海弘藏)
社會と經濟 津村秀松
戰爭と經濟 同
鑛床地質學 加藤武夫
數學者の手帳から 津野耕治
理想の珠算 上下 石上祿之助
圖工となるまで 小川芳太郎
鳥類記 內田清之助
お伽新集 小野小峽
花札の取方 附小口必勝法
各種かるた取揃居候
各種日記御著仕候
大阪屋號書店
振替京城二五七三

蠶種と桑苗
豫約御注文の最好期!
蠶種に對しては目下特に貯藏冷藏水庫建設中に付手當の付屆は勿論貯藏御依囑にも應じ得る見込に御座候
各種何れも優良なる現品多數用意持合居候
京城漢江通四番地
振替口座三六二一番 電話龍山六四一番
東蠶社種苗部

金
本誌は、家庭の金の高方及金利殖法を說き如何にして一男一女の貧者が富を得たる方法手段、立志の人が出世への道を說きて居ります
申込は一金三十錢 振替口座東京一七八八番
東京京橋區南傳馬町四ノ二
(同誌發行人) 紀室藤吉

講談雜誌
小買物……武田比佐
義士銘々傳 永代橋訣別……桃川如燕
花川戶助六……神田伯山
天保 白浪傳 火柱の夜叉丸……
小栗 ケ原 勇婦の決闘……
おこよ 源三郎 左膳長五郎……
落語 和歌三神……
火事息子……
小いな……
二 權兵衞狸……
雜錄 近頃寄席の景氣……
梅模樣水滸卷……
怪談卅一夜物語……
吉野太夫 卅三間堂の通矢……島田兵庫
十二月號 定價金二十錢 郵稅一錢五厘
東京本鄕 博文館

御待兼の封切寫眞提供
大阪朝日新聞連載中
佐藤紅綠先生不朽の大作
新派家庭悲劇 孔雀草 五卷
山本嘉一の栗本鐵治 東猛夫の女優國子
運平の瀧三千雄 富士野秀夫の瀧三千雄 橫山五月操
の小技子を演し居候
伊太利パスカリー會社大傑作
冒險悲慘劇 焰の曲馬 四卷
伊太利大曲馬團の演伎場 六百呎の高所纏の綱に縋る時 戰慄すべき呪の火一るる紅蓮の舌 混亂せる數千の觀客 命と賴むたつた一條の絆
舊劇 斑鳩平治 四卷
斯界の名優尾上松之助一派出演
米國キーストン會社作
滑稽活劇 デブ君の水難 最長尺
◎本興行中一等卅五錢二等廿五錢三等十五錢
◎大阪朝日新聞讀者に限り初日より割引の特典あり
十六日より開演 大正館

十三人朝鮮人四十一人其他一人[illegible]人百九十八人朝鮮人二百九十三人其他[illegible]チブス發生內地人百四十一人朝鮮他四人腸チブス發生內地人五百二[illegible]十五人朝鮮人十九人チフス[illegible]人百十九人其他一人死亡內地人二百五十二人其他[illegible]十九人朝鮮人二千二百五十[illegible]死亡內地人[illegible]

…妥を持し一向振はざる商内行はる大豆十萬噸が近く市場に現はるゝに到らば大豆は一時下落を免るゝ能はず豆價は愈々低落するを免れざるべし其結果銀價の高低に拘らず或は商氣誘發するに到るれんとせず且つ銀高の爲め斯界は一般に悲觀せられつゝあるが當業者の觀測に據れば本年支那產の金…影響を受けて綿の需要殆んど見る可からず而して内地は大暴風其他…可きかと（奉天）

…しが今回京畿道警務部在勤を命ぜられ十五日出發赴任の途に就きたるが後任として警務總監部渡邊警視近く來任すべしと▲瑞穗校落成

支店田島氏は…釜山支店詰に築韓近く赴任すべく後任としては同支店詰細川氏昇進來任すべしと

開城 ▲判事著發 水野法…▲瀨走計監は開城憲兵分隊經理事務檢査の爲め十七日來城の豫定なり ▲小川氏追悼會 來る十七日は前…

全鮮傳染病狀況 警務總監部衛生課調査に係る本年九月中全鮮傳染病患者發生死亡狀況は赤痢發生内地人百八十三人朝鮮人九十一人其の他三人死亡内地人四…亡内地人一人朝鮮人四人なるが尚本年一月以來九月迄の累計に依れば赤痢發生内地人千百一人朝鮮人七百三十七人其他十五人死亡内地…死亡朝鮮人四人發疹チフス患者内地人十五人朝鮮人八十五人死亡朝鮮人四人猩紅熱發生内地人百九人…

陸軍特別大演習

▲南軍觀音寺山占領
◆司令部草津に移る

川瀨にて　中谷特派員

十五日朝日野川にて北軍の退却を知れる南軍は北進して戰國時代織田信長が敵を敗走せしめ其の居城觀音寺城を奪取したる有名なる觀音寺山は早朝手に入り南軍司令部を大津より草津に遷せり野砲の轟き機關銃の音更にプロペラーの響勇しく南軍は中山道を北進す（十五日正午發電）

▲砲戰!! 今や酣なり
◆猛烈なる北軍追撃戰

午前十一時南軍は兩門の火蓋を切る北軍之に應戰したるが南軍は漸次北軍を壓迫して猛烈なる追撃戰を試み北軍は死力を盡して漸く踏み止まり機關銃の響爆々たり斯くて午過ぎ北軍は南軍の左翼より攻撃を開始したるが砲聲殷々として折柄重く垂れたる雲翳を破り小銃の音も劇しく機關銃の音又間斷なく起りて今や戰闘酣なり（十五日午後二時發電）

▲激戰一時間半に及ぶ
大元帥陛下御觀戰
◆兩軍司令官御前に召さる

この日大元帥陛下には御野立所にて御觀戰あらせられしが午後一時より二時まで激戰止まず梨本宮殿下の第十六師團が御野立所附近に殺到したる時（二時五十分）演習中止の命下り兩軍司令官は統監部に集まり陛下の御前に召されたり斯くて陛下には御觀戰を終らせられたるを以て直ちに川瀨御發輦、龍顏殊の外麗はしく彦根へ還幸あらせられたり（十五日午後四時發電）

▲激烈なる空中戰

兩軍飛行機は何れも武裝して根據地を發し敵陣地の空より頻々として爆彈を投下し互に入亂れて激烈なる空中戰を演じたり（十五日午後四時發電）

▲幼年學校長へ賜謁

大元帥陛下には御野立所に於て大阪、名古屋兩幼年學校長を御前に召し拜謁を賜り又同職員生徒一同へ御菓子を賜はりたり（十五日午後四時發電）

◎香港から鳥打ちに
ヘンリー總督の入京
◇『猛獸狩はやらぬ心算だ』と語る

香港總督が猛獸狩の爲めに來鮮、十五日夜東大門驛着列車にて釜山より入京の旨を聞いて鳥致院驛に出迎ふ、總督の乘れるといふ一等車が見付けば、總督の伴へる支那人從僕が『總督は唯今食堂車中』といふ、食堂車より出て來るを待て刺を通ずれば、總督は快く記者を引いて語る

余は前の翌日に香港を出發し、長崎を經由して渡鮮した、到る處鄭重なる待遇を受けて、實に

✕愉快なる旅行 を續けてゐる、余は初めて朝鮮の地を踏むので、初見の山河に接するのも亦愉快の一つである、今回は狩獵と云つても、野獸を目るのではない、雉や雁、鴨を撃たうが、就中雁鴨を狙つて見たいと思つてゐる、京城に一泊、十六日

✕元山に向ふ つもりだ、時に元山の獵場は何うです……夫れは誠に結構な獵場ですか、何分余自身は不知案内のことであるから、萬事は在京城の英國領事に書面で依賴してある、多分案内して貰へることゝ思つてゐる、元山から何處へ廻るかは未定だが

✕朝鮮滯在は 二週間、復た長崎へ出て同地から香港へ歸へる豫定だ、同行者は同國の辯護士グーチ君と、從僕の支那人と余の三名限だ、と言葉を吐切つて、貴君は何處から來られた、ア、爾うですか、京城から、では前の驛で乘り換へたのですね、何うも態々御苦勞さま

✕至極御機嫌 隙かさず記者が記念の爲めに姓名を書いて頂きたいと差出す手帳を受取つて汽車の動搖を苦にしつゝ、サー、ヘンリー、メーと記された

◇入京せる香港總督（右）と其自署（下）

◎窓外の風光を賞しつ
◇虎狩隊一行 大元氣で元山に到著す
『京元珍聞』に打興じた車中の賑ひ

十五日朝南大門を發した虎狩隊一行三十三名は元山迄賑にして午後元時元山に到著したり 大邱、愛媛、巴三旅館に分宿したり途中沿線は未だ枯し窓外に吹荒さびて冬枯の光景轉た蕭條を極むるも三防以東は

◇山嶽重疊 して雄壯の雄大なる、巖巖峭立して千重なる所淡水淵をなして其の風光の佳なる眞に半島の耶馬溪なりと一同何れも嘆賞措かざりき鐵原平野を過ぎて山嶽は既に雪を頂き三防高原は

◇寒氣頓に 加はりて河は既に堅氷の張れるを見る、一行中の記者團は車中に於て『京元珍聞』を發行したるが奇談珍百出して歡興湧くが如き裡に元山に到著したり

▲丸吉の歡迎會

午後七時より元山築旅館及び元山毎日新報社主催となりて一行の爲めに歡迎會を丸吉に開き主客六十名歡を盡して午後十一時過散會せし（十五日午後十一時發電）

◎棉船の難破

全南高興郡高興面豐南里吳（京畿）所有帆船七十石積み、數名の船夫と共に乘組み小鹿島にて棉六十五俵（價約一千圓）を積み込み麗水港に向け航行中十一月十日午後一時頃麗水斗南神小諸島附近にて難破浸水し乘組員は漁船に救助されて上陸せり船體は碎滅

◎漁夫十一名の行衛不明
◇方魚津沖で

愛媛縣越智郡魚島村大濱方吉外二十五名は慶北沿岸にて鯖漁業をなし十一日夜迎日灣を出帆し内地に向け航行中五六海里進みたる頃俄かに暴風雨に襲はれ方魚津に避難し間もなく下關市御町辻頭秀吉所有の第三天祐丸（十九噸）に曳船されしも又も内地に向け航行中緊ぎ合はせたる綱を切斷されし爲め四番の觀音丸は波の爲め攫はれ同船に乘組み中の内地人漁夫六名鮮人五名合計十一名は行衛不明となれり而して殘り三隻の帆船は辛くも十二日午後下關に入港し此の旨水上署に屆出でたりと

◎即死者一名に五千圓を贈る

阪神電鐵は即死せる乘客一名に五千圓を贈る事となれり（大阪電）

◎平南荒しの賊

黃海道海州生れ李春涉（三三）平南龍岡郡生れ趙觀兵（三八）平原郡生れ金鋼奎（三）の三名は共謀し十月二十三日夜平南安州郡大尼面尼西里金萬年（五九）方に突入し泊り客及び家族を合せたる六名を悉く縛り上げ三十六圓餘の金品を強奪し其の他安州面華陽里雜貨商吳汝祥方、平原郡東頭面栗花里金養錄方等十戶許りにて同樣家人を制縛し兇器を以て脅迫し金品を強奪して逃亡中三…一千三百餘圓の損害を蒙りたりと

◆素空總監虎物語（一）
無手勝流で虎と豹を退治した朝鮮人

山縣政務總監が山本氏招待會の席上でされた虎物語はこうである、朝鮮では虎と豹とを夫婦だと思つてゐるそうな。ところで或時一人の朝鮮人が山中で豹と虎とに出會つたので道々の隘で逃げ出したが段々と追詰められて終ひには仕方がなくなり或る大きな樹の上に登つた。すると豹も又人間の後を追つて登つて來るので先生は蹤を濇して腹の力が全然拔けて了つた。腹の力が拔けて締りなくなつたので『パチ（内地のパッチは此の轉訛か）』がずる〳〵と拔けて豹の頭に冠さつた。豹は急に眼が見えなくなつて進退を失つて木から落ちた。すると下に待ち構へて居た虎は豹を人間が落ちて來たと思つて一時に嚙み殺してよく〳〵見るとそれは如何に人間ではなく自分の愛妻たる豹であつた。虎は之を見て非常に驚いた拍子に心臟が破裂して死んで了つた。そこで樹の上の朝鮮人は悠々と下りて來て得々として虎と豹を持つて歸つてさも自分で殺した者の樣に村の者に誇つた

◎恐ろしい放火狂

咸南安邊郡瑞谷面上里金周龍（三）は大正四年舊十一月より本年舊九月迄に同里金炳琇方外五戶に前後八回放火して内六戶を全燒せしめたること發覺し此の程安邊分隊に逮捕取調べの結果同人は精神に異狀あること判明したるが全く放火狂なりと

◎瘴と並んで白骨屍體發見

本月十二日黃海道松禾郡栗里面新村里の山中に白骨のみとなれる人の屍體を發見せり松禾分隊より出張檢視せしに白骨の後頭部に二個の穴あり銃創の如く尚其の白骨と三間許り離れて瘴の白骨あり前後の情況より觀るに狩獵の爲め或る獵夫が發射したる散彈が瘴及び白骨となり居る者に過つて命中したるものゝ如く件の狩獵者は其の儘何れにか逃亡し年月を經過したる後此の程に至り發見したるものゝ如しと

◎俳優の橫領

大阪東區谷町一丁目生れ仁川濱町春陽舘に滯在中なりし俳優林次男（三二）は去る十一月中京城黃金町三丁目尾崎よりも帶、單衣を又平井某より夜具（一二十圓）を借用中橫領の上質入消費し仁川に逃走中本町署に捕はる

◎小火

十四日午後十時二十分頃京城永樂町二丁目小林孫衛氏方座敷の炬燵より失火蒲團に延燒したるも直ちに消止む

悲しき別世界
濟生院養育部（2）
孤兒狀況參觀記

▽—里子を殺すには二通り— —朝鮮人は一般に人に馴れ易い性質なれば—△

須藤長は更に語を續けて『內地ではよく貰子虐めとか里子殺しといふ事を聽きますけれどもこちらにはさういふ事は滅多にありません。しかしその里子殺しといふのは多く小供の

◎養育費を 前金に貰つて使ふ樣ですね。そしてその金を使ひ果した時は又他の小供を預つて養育費を貰ふために前の里子を殺すんださうですが隨分人非人もあればあるものです、そしてその里子を殺すに二種あつて餓死させることもあれば食はせ過ぎて殺す事もあるんださうです。小供があまり食過ぎると

◎始めの内は まる〳〵太つて一寸肥れた樣に見えますけれどもそれは肥れたのでなく身體が脹れるのです。そして間もなく死ぬのですが、里子殺しは多く食はせ過ぎる方を使つて子供の親を欺すのださうです。何んと殘酷なものではありませんか。廣い世の中には隨分色々な人間も居りませうけれどもそういふ慘酷な、動物にも類を求める事の出來ない人間があると思へば思はず慄然します。しかし幸ひにこちらにはあまりそういふ種類の者は見れない樣です 又本部では

◎養育費を 月々にやるのですから小供をなるべく丈夫に育てなければ却つて自分の損になる譯です……孤兒といふのは多く僻性を起し勝ちなものですが朝鮮人は一體に人に馴れ易い性質を持つてゐる爲ですかさういふ曲つた根性を持つてゐる者は割合に少ないです、棄子は多く貧に困つて仕方なく棄てるのもありませうけれども中には

◎不義の種 を宿して處置に困つて棄てるのも多い樣です。不義をする位ですから中には飲酒家も居れば、梅毒患者も居りませう。その汚ない血統を受けて產れた者も多いですから總じて腦力は鈍い樣です。しかし又中に利發な兒も居ります。』畜生馬鹿でさへも自分の子の

◎可愛さは 解るであらう雉子夜の鶴、子供のためと思ひ、小供の行先きを慮つてこそ親なれ餓死せばともに餓死せんではないか、人間の顏を汚した者が徒貌や不義のために現在自分の腹から產み落した子女を路傍に捨てるとは何たる淺ましい事であらう—（降）

◎天氣豫報正誤 昨紙夕刊天氣豫報中に『氣溫下る』の五字を脫落したれば補正す

◎孔雀草 大正館は十六日より特別興行として全部新寫眞と差替ふる筈なるが主なる寫眞は大戰爭所戰の孔雀草、活劇炸娟の曲馬、喜劇いかるが平治にて右の內孔雀草は封切物の由

◎黃金館 十六日より特別興行として全部新寫眞と差替へる筈なるべしその主なるものは左の如し▲實寫英國開戰準備▲滑稽留守番人の參觀▲喜劇ハロール▲新派生さぬ仲全四卷▲正劇…

◎壽樂館 十五日より差替へたる活動寫眞の秘密探偵…て好評を博しつゝあり

うわさのうわさ

山本唯三郎氏の虎狩隊が南大門を出發するとき見送りに行つた千代本の女將が山本氏に向つて『旦那只今から御土產の御禮を申上げて置きます』といふと山本氏は『土產は虎の鋤燒だ』と答へる▲そこを隙さず女將は『虎の鋤燒なんか頂きまんワ、何うか山猫の生きたのをネ』との幕切れ宜しくあつて汽車が出發したが▲一行の勇氣は素晴らしいもので中に『王介甫の虎圖』を高唱して居たものもあつた▲賓にや『高風颯々として黃塵を吹く』ところ定めてあらう▲病氣に罹つた昌慶苑の大象クンは發病以來二日で半打のブランデーを平げて了つた此分では病氣の治るまでにブランデーが何打要るか解らないと係の役員が零してゐた

京日案內
普通 一回前金五十錢 一番外 一回前金 ▲申込は中途掲載中止の節は料金返戾せず▲六回以上の御申込は特に御割引のこと▲御照會の節は信書に必ず回答せず▲御照會の節は…

店員數名募集 二十歲前後保證人を要す 京城蓬萊町三丁目酒醬油釀造場 43
家屋賣却 市內旭町二丁目いろは 家付百六坪 家賃月二十圓在賣 京城蓬萊町三丁目 附坪十三圓 鍾路小林代書所 37
古本御買受 御報參上 明治町通 野村書店 電話三〇五番 7
募集 製造販賣を望む者至急來談 京城明治町一ノ五四 乾製本所 5
讓店 本町通り目抜の場所利益確實なる菓子店の讓りたし 希望の者は米倉町三河旅館へ來談ありたし 南 47
防寒用 各種的スリッパ 高野製作所 京城本町二丁目 振替四六〇(14)
魔法瓶 中瓶 高木旅行用具店 京城本町一丁目 22
銃砲火藥 增戶銃砲店 京城本町三丁目 電話二〇九 764
はねつき 一切の治療御依賴に應す 明治町 柔術道場 77
年金 恩給 低利 五年半迄 保險不要 即時 明治町 江州屋本店 770
銃砲火藥獵具 京城南大門通三丁目 電話一五六〇 本店仁川 支店青島 藤木銃砲店 785

時計及蓄音器卸商 營業創立明治二十八年 京城黃金町二丁目 喜多金光堂 電話一〇一五・振替京城七八二

本年四月以來滿洲漫遊後引續き東上中之處患者各位の懇望に依り再び京城に於て痔疾一般之診療に從事可致目下開院準備中に有之此段豫告仕候也 京城旭町二丁目東京廣告舍 久枝肛門病專門醫院長 藥劑師、看護婦、見習看護婦至急募集希望者來談ありたし

本日より大提供 入場料金普通 新撮影 義士外傳 ▲舊劇 村上喜劍 ▲新劇 胡蝶姬 ▲大阪日本派聯合新派家庭悲劇 新 生さぬ仲 全篇悲哀の極！極の悲哀 十六日より 黃金館

榮養ヲ增進シ精力ヲ旺盛ニス グリコナール錠 本品ハ醫學博士佐伯矩先生ガ創製セル榮養劑ニシテ五〇%ノグリコゲーント蛋白脂肪燐鐵分ノ適量ヲ含有ス 一般虛弱、心臟機能衰弱、胃腸病、結核其他慢性病者等食事攝取ノ充足ヲ要スルモノニ對シ榮養ヲ增進シ精力ヲ增加ス 百錠金壹圓▲各藥舖ニ有リ▲說明書無料 東京室町 三共株式會社

家庭常備の發明品 便利重寶の發明品 火災てふ文字は特に字書より除かれん 新案特許第四二六五八號 安全衛生 第一 かいろこたつ（名火無こたつ） ▲火無こたつ…は水に浸せば百八十度の溫度を四十時間以上持續す ▲火無こたつ…は二十五日以上の使用に堪ゆ ▲火無こたつ…は火氣を用ひざるを以て火災の虞更になし ▲火無こたつ…は湯水等の浸出する患なきを以て旅行觀劇來客用として頗る好評あり ▲火無こたつ…は待合料理店、理髮店工場病院等往來頻繁なる處に用ひて一層効果著し ▲火無こたつ…は人體に有効のものを原料とせるを以て衛生上缺く可からず 定價 こたつ金五十錢 かいろ金二十五錢 特約店募集 發賣元 特許品製作株式會社 東京市麴町區飯田町三丁目十番地（電話番町二八一九番） 火災を撲滅する發明品 經濟無比の發明品

殺虫 防臭 殺菌 黑岩式 固形石油乳劑 定價（一打入 金二十八錢 半打入 金十五錢）
▲本品の特徵 一、從來水と油とは分離し易きものなるも本固形石油乳劑は黑岩工學士多年苦心研究の結果創製せられたるものにして其特徵は油と水と融合し… 二、固形石油乳劑は其性質上最も便利にして熱湯若くは約八十度以上に加ふる時は完全に溶解す… 三、固形石油乳劑は品質に於て永久保存するも何等の變化なきを以て特色とす 四、固形石油乳劑は殺虫、防臭、殺菌、防虫に有効なり 五、固形石油乳劑一個に殺虫劑を除くも十分の効あり 六、固形石油乳劑は一個にて植物に害なく害虫驅除用として頗る有効便利なり 七、固形石油乳劑一個を溶かして用ゆべし 八、百倍乃至五百倍用となりて…
▲効用 ▲使用法
朝鮮總發賣元 京城本町 熊平支店 長電話六二四番 電話三壹一五番・振替京城弐弐番
●特約店募集 至急御申込み被下度候

櫻御殿

第六十八回　大阪　霞の家主人

安藝の月(八)

『あはれな者ぢや、助けて遣はされへ稿』

美知姫は委細を聞いて云つた、憐れな童子と村平とは、一行に救はれて、直に旅籠へ伴はれた。菩薩はその童子の年格好が、己の弟の様に思はれるので、一入同情の目を引いた、端近い一室を宛はれて、そこに村平の介抱をして居るのを、渺々戸の外から覗いて居たお、やがて己の部屋へ駆け戻つて、先刻美知姫から拜領した美しい干菓子を紙に包んで持つて來た

『あなた、これを遊せませう』

童子は悲しう歎いて

『辱うござる、嬉しうござる』

と云つた

『お藥を進げませうか、ちと捺つて進せませうか』

『いゝえ、それには及びませぬ、今日は思ひ掛けぬ御縁で、奥方様のお助けを蒙むり、斯様に歎ばしいことはござりませぬ、お目に掛つてお禮も申し上げねばなりませぬが、それも恐れ、これから伏拜んで居りますと、仰せられて下さりませ』

村平から云ひ付けられてでも居るらしく、童子は慇懃に手を支いて云つた、伶悧しさうな容貌、歯切りの好い言葉、菩薩は聞くごとに同情が深くなる

『わたしはこれから奥方のお供をして、安藝の國へ參ります、お前様は何れへお越しでござります』

『駿河の府中に村平の身寄でござるで、それへ志す意でござつたが、急の病氣でそれも協ひませぬ、はて、何うしたら宜しからうと、只今話し合ふて居た處でござります』

『一いつそ安藝へお供なされては何でござります』

『これはしたり』と頭を抑へて横になつて居た村平が[illegible]掛けて『御家人でも無いものが、お供の協ふ筋はござりませぬ』

『一奥方様はお慈悲深うござりますそれにわたしの[illegible]』

『初瀬様、どのやうにお情深いか分りませぬ、[illegible]を云ふてお願ひ申したら、お聞き入れ遊ばすは必定、初瀬様へ申し上げて見ませうか』

『ごうも恐れ入ります』と村平は歓びの色を見せて『わたしまでもとは願ひませぬ、切ては坊さまだけなりとも、お情し[illegible]下さらば、生々世々のお情でござります』

『お待ちなされませ、わたしが願ふて參ります』

菩薩は小供心に同情して駆けて行つた、後に村平主從は顔を見合はせてニタリと笑ふ、誰か知らう村平は伊奈圖書の近習で、記念の一刀を貰つた水品嘉平であらうとは、そのまた童子は、圖書の遺子一徳丸が、形之の奥方と聞いて[illegible]の懐に身を托すべく、こゝに憐れの態を見せて居やうとは、菩薩は嬉しさうな顔をして駆けて來て

『お歎びなされませ、初瀬様がお越しでござります』

と云つた

村平主從は一時に笑顔を引き込める

『坊さま、御不禮を爲されまするな、御老女様がお入來でござります』

『いゝえ、御老女ではござりませぬお中﨟様でござります』

と云ふ處へ、初瀬は靜々と入つて來た、美しい眉根に、憂愁の影を宿して、心の消しさうな同情を深うする

『お中﨟様ぢや、それお中﨟様おや』

村平が慌てゝ起き直らうとする、初瀬は

『其儘に居らせられませ』

と云ひながら入つて來た

西洋料理　電氣すき焼　ハイカラ丼　おいしい所　京城第一と高評　カフエータイガー　電話二五七一番

品質の純良を以て多大の御用と賞讃を博しつゝある　高麗人蔘エキスは　京城府明治町一丁目　小笠原大藥房　電話一九四八番　振替京城七五三番

□惡魔の家

‖住居を定めるには日光と空氣に注意‖

住居を定める場合に第一に心を用ゐねばならぬのは其家が日光の射し工合が好いか惡いかと云ふ事に注意することであります、俚諺に『日光の入る家には惡魔が入らぬ』とある通り日光の入る家には惡魔が入らぬ、入らぬ處の家は病人が出來るものです、第二は空氣の流通の良い惡いかを調べる事、第三は濕地でない所に求める事です併し都會生活をする人は

◇理想的な場所に理想的の家を求める事は中々困難ですから若し空氣の流通の惡い家でしたら壁を拔くとか窓を開けるとかして之を補ひ日光の射入の惡いのには屋根に明り窓を附けるなり引き出しを作るなりする事です濕地に住む場合は出來るなら地盛をする事です、若しそれが出來なければ床を高くする事、それも出來なければ床下に幾條も小溝を暗渠式に作つて水をはくやうにしそして床下には木炭末かコークスを一面に布くのです、斯うすれば濕氣を防ぎ得る事が出來ます、床下が濕つて居る事は種々の細菌の繁殖に便ならしめる爲め

◇傳染病の侵入を容易ならしめるのみか脚氣やリョウマチス患者を出します、別莊を求める人が風致の上から見て溜の畔が好いとか山際が好いとか云ひますが衛生上から見ば双方共に惡い事です

百五十里行(二)　芳宙

[illegible]郡役所と憲兵電所の落葉落

川

水に夕日を集めて樓は暮れ合へる

架橋いそしむ雑音に霧が流るゝ

ロボの店に林檎が埃浴びて居り

月の町の奴、酔歩ゞドテラの二人

○

[illegible]

夜寒顔で一心に草鞋作る人々

[illegible]

秋雨の擔仰ぎつゝ[illegible]

秋雨が吹いて上る風に濡れ迷ひ、落つ

鳩色の富肌を洗ふ秋寒き雨

□金郊より　静軒

(十四日)　此の間に乗り、久方振りに[illegible]れしさの餘り、旅の疲れも打ち忘れ[illegible]

壽詩を聞かで俳論に更く夜長

納豆にくさくのこと語り盡く

○　不老郎

爐にそぐはぬ帶にて上座下座

爐火近かくと寄す昔の顔にて

いふり炭知・火桶抱くおのく

新刊紹介

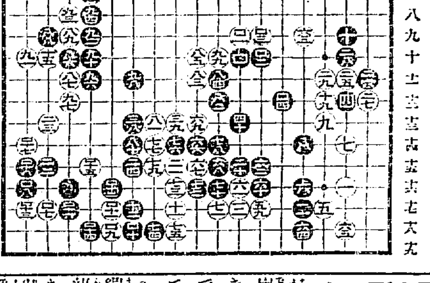
◇演藝俱樂部(十二月號)[illegible]

◇子供之友(十二月號)[illegible]

圍碁手合(四)

三段　山澤平氏　三段　來見治一氏

白リ十の九(二十一)より始ル五の(十二)迄



あれ性の人に

(ミツワ文庫六ノ二)

秋風とあれ性の皮膚と　あれを豫じめ防ぐ注意

市川八百藏談

秋の季節に入りまして空氣が冷て參りましたから晴れて居ても日が冷たく冴て空氣の冷めたく皮膚に當りますからあれ性の方が惱みますのは此れからでございます、あれ性と云ひますとつまり皮膚に脂肪が少なくて潤ひがなくつて肌理の荒いとでございますが斯様な方は此れからの秋にありますと皮膚がカサカサに乾いて[illegible]

[illegible]

ございます、それには暖かい室から突然夜の冷たい外氣の中へ飛出して冷たい空氣に皮膚を曝さないこと湯水に手を浸しましたら必ず一度清潔に拭きましてその後へミツワ健膚藥を塗つて置くことなどです、尤も重要なことは皮膚の榮養を助けるミツワ石鹸を使つて入浴をしましてから湯上りに必らずミツワ健膚藥をお用ゐになることが[illegible]

[illegible]ございます、浴場は皮膚の表に[illegible]て居ります皮脂腺や汗腺などを[illegible]から自然と皮膚が荒れたりしますものですから皮膚を刺戟して荒らすことはなくて榮養を助けます、此のミツワ石鹸を使つて入浴をしますと皮膚が清潔になりますと上に健やかになつて生々した色澤になつて湯上りに[illegible]ミツワ健膚藥を皮膚へ擦り込む様にして塗りましてからまた[illegible]湯で搾つ

なつてお痛しになるに限ります、[illegible]裂の出來ました處へ[illegible]ものに此のミツワ健膚藥を只擦り込んで置くだけで宜しいのです

が少し重くなりましたものはその出來て居ります場所よりは少し大きい布か紙に此の藥を箆様のもので塗りまして之をその場所へ貼つて置くのでございます、若し外れる様な場所は其上を油紙で蓋うて繃帶するか絆創膏で貼りつけるか絆創膏でとめて置くと宜しうございます、併しあれ性の人は豫防が大切でございまして荒れたり罅裂が出來たりしない様な用意が大切で

た手拭で拭へる様にしますと皮膚に吸收られない餘分が除られます此は皮膚の乾燥を防ぎ皮膚の組織をひきしめて白粉ののりもの宜しくなる様に整へる藥でございますから肌理は細やかになつて潤澤が出ますから自然此の秋にも肌理のあれを知らずに過せます、白粉下として用ゐますと白粉がよくなづみまして化粧崩れがせずによく保ちます。

大阪株式特電

(十五日前場)

大阪株式	二五、四〇	三四
東洋製糖		
大阪商船		
日本郵船	二九〇、九〇	
同新株		
宗満米株	一七一、六〇	
高値	二四〇、〇八	二三、六八
安値	二四〇、〇	
北の		二三五九	二三三五

△十五日後場　仁川米

一節先限十九圓七十六錢と一錢安

△中限三節二十圓二十四錢三錢半

△先限一節十九圓七十八錢七十六錢七錢八

均値二十三錢

錢九錢八十錢九錢八十錢九錢八十錢

十五日の一月限

後場　寄付　十九圓七十六錢

止メ値　十九圓八十五錢

高値

安値

七大醫學博士の賞讃と證明ある純生粹葡萄酒

友白髪まで長壽延命　老人も若返る

美味滋養の葡萄酒

赤玉ポートワイン

「朝夕の一杯は百藥に優る」

赤玉ポートワインは美味滋養に富める葡萄酒にしてその豊麗なる滋養分は健胃。補血。興奮。强壯の目的を完全に達せしめ常に用ふれば、老衰を防ぎ精力を增進し老人も眞に若返る葡萄酒赤玉ポートワインを朝夕欠さかす召上れ

G

花柳病専門　外科　●梅毒●淋病●泌尿生殖器病●睾丸病●痔門病●皮膚科●婦人病●神經衰弱ヒステリー　京城南大門通農工銀行裏　司生堂醫院　電話三六九番

大質　黄金町二丁目日根町　電話二九一六番　田村質店　商品擔保便利取扱

りん病はい毒　ワにせドラッグあり御注意　詐欺漢なり　京城南大門外停車場通　花柳病専門薬房　ドラッグ商會

眼科専門　京城若草町　金井眼科醫院　電一五五六　新築落成に付入院隨意

攝津灘　大塚釀造所吟製　發賣元　京城本町二丁目　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五番

貯蓄預金　元金百圓ニ付日歩壹錢三厘金壹錢以上何程ニテモ御預申候　株式會社長崎貯蓄銀行代理店　株式會社十八銀行京城支店　京城黄金町電話四二〇番　京城八一〇番　同　龍山出張所　龍山元町二丁目電話一八番　諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

外科皮膚科醫院　京城旭町二丁目(舊三丁目)　電話二四九八番　醫學士　瀬戸潔　診察夜九時迄

釜山出帆廣告

汽船　門司、神戸、大阪行　和歌浦丸　十一月廿一日後五時出帆

立神丸　十二月一日後五時出帆

元山、清津、城津行　和歌浦丸　十一月十一日後十時出帆

立神丸　十二月二十日後四時出帆

元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三平丸　十一月十一日後六時出帆

門司、宇品、神戸、大阪行　第三琴平丸　毎月二日九日十六日後六時出帆

佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　天興丸　日廿一日廿六日十四日午後十時出帆

釜山港埋立新町　大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆

郡山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行

秀吉丸　十一月廿二日後四時出帆

大有丸　十一月廿七日後四時出帆

神代丸　十一月廿五日後四時出帆

君が代丸　十一月十六日後四時出帆

仁川海岸通一丁目　高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

芝罘、大連行

共同丸　十一月十八日午後八時

廿一共同丸　十一月十九日午前十時

本町四丁目(電話一七三番)　野口商會

仁川代理店　田口回漕部

元山代理店

京城取次店　河村運送店

朝鮮郵船出帆

○元山より北鮮各地經由雄基行

穩城丸　十一月廿二日

咸鏡丸　十一月十七日

三成丸　十一月廿三日

鏡城丸　十一月廿五日　元山發

○元山ヨリ釜山關門行

三浦丸　十一月廿四日

京發丸　十一月廿五日　元山發

○元山ヨリ江原道寄港釜山關門行

成鏡丸　十一月一日

忠清丸　十一月廿日　元山發

○浦項行(元山より朝鮮各地經由)

平壤丸　十一月廿一日　元山發

○鬱陵島行浦項及各地經由

慶尚丸　十一月二十日　釜山發

○浦項行(長生浦方魚津甘浦九龍浦經由)

江陵丸

襄陽丸　毎日　釜山發

○濟州島行長承浦麗水巨文島經由

昌平丸　十一月十八日　釜山發

釜山、麗水間

統營丸

濟州丸　巨濟丸　毎日　釜山發

○濟州島行(西歸八所及西歸、子島經由)

東莞丸、公州丸

西莞丸、慶興丸　十一月十九日、十七日　木浦發

○木浦麗水間(麗水にて釜山行接續)

順天丸　三日目毎ニ　木浦發

○木浦ヨリ多島海各島行

慶興丸　十一月廿二日　木浦發

○仁川木浦行(群山其他各地經由)

晉州丸　十一月十七日

麗水丸　十一月廿一日　仁川發

○仁川鎭南浦行(海州其他各地經由)

南陽丸　十一月二十日　仁川發

○濟州行(江華島喬桐島經由)

全州丸

南陽丸　休航　毎日　仁川發

○青島行(芝罘、大連經由)

江原丸　十一月十九日　仁川發

×成三浦丸　十一月廿日

×京鏡丸　十一月二十日

忠清丸　十一月廿四日

丸　十一月廿九日　釜山發

○關門より釜山各地經由雄基行　但し×印あるは江原道寄港せず

本社　京城南大門通　電話一五五一三三番

釜山港　佐藤町　釜山支店

元山港　海岸通　元山出張所

仁川港　代理店　堀回漕部

木浦港　代理店　山野回漕部

京城南大門通　松原運送店　電話一一七〇番